

季刊・令和4年10月15日発行・第58巻第4号（通巻496号）

ISSN 0014-9586

Feed Trade

WEB版

VOL. 58 NO. 4



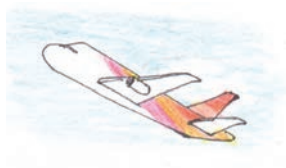
2022

10_{~12}

飼料輸出入協議会

JAPAN FEED TRADE ASSOCIATION

2022年 10～12月号



目 次

＜秋季為替セミナー＞

最近の金融市場の動向……（3）

講師：藤田 義崇氏

釜石港コンテナ物語／中平 貴之……（28）

魚粉の進化を考える／井口 忍……（47）

新シリーズ●フリートピック——第1回

米国の物価事情／向井 滉……（58）

シリーズ●わが社「自慢の逸品」——第33回

「美味ピータン」のご紹介／丸紅エッグ株式会社加工事業部……（62）

シリーズ●各地の食生活——第11回

ニューヨークの食生活／小國 聖仁……（66）

シリーズ●各商社の担当者紹介⑧ 丸紅株式会社

弊社食料第二本部穀物油糧部社員のご紹介……（72）

●New Balance＜11＞

ウクライナ戦争と米国ドル高に翻弄される今年の穀物市場／岩崎 正典
……（77）

新年賀詞交礼会についてのお知らせ……（97）

編集後記……（98）

最近の金融市場の動向



＜講師＞

三菱商事(株)財務部金融市場チームリーダー
兼 三菱商事企業年金基金 外貨建資産ファンド
マネージャー

藤田 義崇氏

●日時 2022年9月14日 ●場所 新橋ビジネスフォーラム

皆様、こんにちは。三菱商事財務部の藤田です。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

先ほどお話しいただきましたとおり、最近、為替の動きが非常に激しくなっております。特に2022年の年明けから数えますと、今までの値幅、30円の円安となっております。今までも30円以上の値幅を伴った年は幾つかありますが、ほとんどが円高方向に向けた年ということで、これだけ大きく円安に触れる年は、極めて歴史的なことであると言えるかと思います。

これだけ歴史的に大きく動く年ですので、今日は、為替の単純なチャートの動きだけではなくて、そのバックグラウンドになっている世界各国の経済動向および金融政策の動向も含めて、簡単にご説明させていただきます。

資料1（編注：スライド、以下同）、こちらは各アセットクラスの年初来のパフォーマンスを示した表です。ご覧いただきますと、2022年前半は、過剰な金融緩和と、ウクライナとロシアの戦争の影響で、緑色のコモディティが独り勝ちしている。

この結果、尋常ではない高インフレが発生しまして、これを解決するため

資料 1 資産クラス別の年初来リターン

2021	JAN	FEB	MAR	APR	MAY	JUN	JUL	AUG	2022
コモディティ	コモディティ	コモディティ	コモディティ	コモディティ	コモディティ	預選金	S&P500	S&P500	コモディティ
46.3%	11.2%	10.7%	13.1%	7.5%	8.6%	0.1%	7.2%	3.0%	33.9%
REIT	預選金	金	REIT	預選金	投資適格債	米債	REIT	新興国株式	預選金
33.2%	▲0.0%	6.0%	5.6%	0.0%	0.3%	▲0.7%	6.4%	1.8%	0.3%
S&P500	新興国債券	預選金	S&P500	金	先進国株式	金	先進国株式	REIT	金
26.9%	▲0.3%	0.0%	3.3%	▲2.2%	0.2%	▲1.6%	3.9%	1.5%	▲3.9%
先進国株式	金	新興国債券	金	米債	新興国株式	新興国債券	ハイイールド債	ハイイールド債	新興国債券
8.8%	▲1.7%	▲0.5%	1.3%	▲3.0%	0.1%	▲2.4%	3.7%	0.9%	▲8.0%
ハイイールド債	米債	米債	先進国株式	REIT	米債	投資適格債	投資適格債	新興国債券	米債
1.4%	▲1.9%	▲0.7%	0.1%	▲3.3%	0.1%	▲3.0%	2.3%	0.6%	▲9.1%
預選金	新興国株式	先進国債券	預選金	新興国債券	預選金	先進国債券	先進国債券	先進国株式	S&P500
0.0%	▲1.9%	▲1.4%	0.0%	▲3.9%	0.0%	▲4.0%	2.1%	0.5%	▲10.3%
新興国債券	先進国債券	先進国株式	ハイイールド債	ハイイールド債	S&P500	新興国株式	米債	金	ハイイールド債
▲0.8%	▲2.6%	▲1.9%	▲1.3%	▲6.1%	0.0%	▲6.2%	▲0.7%	0.1%	▲12.2%
米債	ハイイールド債	ハイイールド債	新興国債券	投資適格債	先進国債券	ハイイールド債	新興国債券	預選金	REIT
▲2.4%	▲2.7%	▲2.0%	▲2.0%	▲5.3%	▲0.0%	▲6.5%	0.6%	0.1%	▲13.0%
投資適格債	投資適格債	投資適格債	新興国株式	新興国株式	ハイイールド債	REIT	預選金	投資適格債	投資適格債
▲3.0%	▲3.0%	▲2.1%	▲2.4%	▲5.5%	▲0.1%	▲6.8%	0.1%	▲1.0%	▲14.2%
金	先進国株式	S&P500	投資適格債	先進国株式	新興国債券	S&P500	コモディティ	米債	先進国株式
▲4.1%	▲4.9%	▲3.0%	▲2.4%	▲6.3%	▲0.1%	7.3%	▲0.2%	▲1.4%	▲16.6%
新興国株式	S&P500	新興国株式	米債	先進国債券	金	先進国株式	新興国株式	先進国債券	新興国株式
▲4.6%	▲5.3%	▲3.0%	▲2.9%	▲7.0%	▲3.4%	▲8.2%	▲0.6%	▲1.7%	▲17.6%
先進国債券	REIT	REIT	先進国債券	S&P500	REIT	コモディティ	金	コモディティ	先進国債券
▲9.6%	▲8.3%	▲3.8%	▲3.7%	▲8.4%	▲4.2%	▲10.8%	▲2.6%	▲6.3%	▲18.3%

に、日本以外の世界各国がこぞって金融引き締めを開始しました。その結果として、5月・6月は、S&P500、株価が大きく調整しています。

そこから夏に入ると、今度は金融引き締めがあまりにも急であるということで、世界景気が後退するのではないかという懸念が顕在化してきて、普通に考えると、世界景気が後退するとなれば株価は下がりそうなものですが、株価の下落よりも金融引き締めのほうが強力になっていたということで、そこまで金利が上がらないのであれば、もうちょっと株を買ってもいいかなということで、7月・8月は株価が上がりました。

8月の後半に入りますと、金融引き締めの背景になっていたインフレが、そう簡単には解決しなさそうだという見方が強くなってきて、FRBとしても、ECB、ヨーロッパとしても、通常の3倍速といわれるようなスピードで金融引き締めを始めました。

「このインフレが解決するまでは、たとえ経済に多少ダメージがあろうとも、金融引き締めの手は緩めないよ」という強いメッセージを、アメリカだけでなく、ヨーロッパや世界中から中央銀行が出すようになってきて、再び

株価が下落基調に入ってきているというのが足元までの全体感になります。

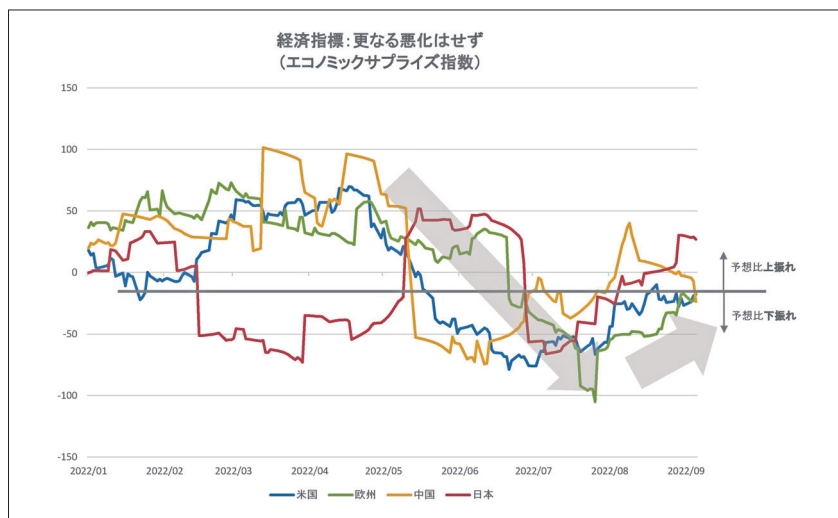
このページで全体感をイメージいただいた上で、この先それぞれのポイントを細かく説明させていただければと思います。

資料2には、エコノミックサプライズ指数と書いていますが、各国の景況を示す指標について、エコノミストがどういうふうに予想していたのか、その予想の結果に対して実績が上振れたのか下振れたのかを指数化したものです。

ここでご覧いただきたいのは前半の部分です。赤色が日本ですが、それ以外の線は、ずっと線の上にある。すなわち、実績がエコノミストの予想に対して上振れし続けていた、ということが示されています。

この上振れし続けてきたというのは一見いいように聞こえるのですが、ここまで経済が強いと誰も思っていなかったがゆえに、インフレに対しての中銀の打ち手はかなり後手に回ってきた。この後手に回り続けてきた数カ月のせいで、先ほど申し上げたような、FRBもECBも通常の3倍速といわれるような急激な引き締めをせざるを得なくなっている、というのが足元の状況です。

資料2 足元の景気動向



20年3月から22年8月くらいまでは、景気がどんどんよくなっているという
ことが見てとれるかと思います。21年は、コロナ対策によって世界各国が
経済支援および金融緩和をしてきたということで、先進国を中心に景気が過
熱してきました。

特に欧州域では緑色が少しずつ濃くなってきているのがわかると思います
が、エネルギー問題、対中貿易減速、ライン川水位低下による物流危機とい
う泣きっ面に蜂のような状態により、かなり悲観的な見方が強まっているの
が欧州の経済状況です。

Country	コロナ												通温相場												最長後退割合											
	Mar-20	Apr-20	May-20	Jun-20	Jul-20	Aug-20	Sep-20	Oct-20	Nov-20	Dec-20	Jan-21	Feb-21	Mar-21	Apr-21	May-21	Jun-21	Jul-21	Aug-21	Sep-21	Oct-21	Nov-21	Dec-21	Jan-22	Feb-22	Mar-22	Apr-22	May-22	Jun-22	Jul-22	Aug-22						
アメリカ	45.5	30	30	48.8	30.5	53.1	52.7	53.4	58.7	57.1	55.2	55.5	55.1	55.2	52.1	53.1	52.4	55.1	55.7	55.5	55.5	55.5	57.5	57.5	57.5	57.5	57.5	57.5	57.5	57.5	57.5					
アメリカ	46.1	41.5	43.5	52.4	53.5	55.4	55.4	55.4	57.2	56.5	54.4	56.5	57.1	56.4	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5					
カナダ	48.1	33.5	43.5	47.8	52.9	55.1	56.0	55.5	55.8	55.8	54.4	54.5	55.5	57.2	57.5	57.5	56.5	57.2	57.5	57.2	57.2	57.2	57.2	57.2	57.2	57.2	57.2	57.2	57.2	57.2	57.2					
オーストラリア	57.5	57.5	41.5	51.5	55.5	45.5	46.5	50.5	52.1	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5					
ニュージーランド	57.5	57.5	41.5	51.5	55.5	45.5	46.5	50.5	52.1	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5	55.5					
ドイツ	45.5	32.4	38.4	41.4	51.4	51.7	52.7	54.8	51.8	55.2	54.8	51.8	55.2	54.8	51.8	55.2	54.8	51.8	55.2	54.8	51.8	55.2	54.8	51.8	55.2	54.8	51.8	55.2	54.8	51.8	55.2	54.8				
フランス	42.2	31.4	43.2	52.4	48.4	52.2	51.5	49.8	51.9	51.4	56.1	55.3	54.4	54.4	54.4	54.4	54.4	54.4	54.4	54.4	54.4	54.4	54.4	54.4	54.4	54.4	54.4	54.4	54.4	54.4	54.4	54.4				
イタリア	46.4	34.5	38.8	42.5	51.5	52.2	54.4	52.3	57.1	56.7	56.7	56.7	56.7	56.7	56.7	56.7	56.7	56.7	56.7	56.7	56.7	56.7	56.7	56.7	56.7	56.7	56.7	56.7	56.7	56.7	56.7	56.7				
ロシア	50.5	41.5	45.5	45.2	47.8	52.3	52.5	50.4	52.1	50.2	50.8	50.5	54.7	57.2	58.4	57.4	55.3	52.5	52.5	52.5	52.5	52.5	52.5	52.5	52.5	52.5	52.5	52.5	52.5	52.5	52.5	52.5				
韓国	57.5	57.5	41.5	45.4	47.8	51.4	52.2	53.8	51.5	52.4	55.1	56.5	51.4	52.2	52.2	52.2	52.2	52.2	52.2	52.2	52.2	52.2	52.2	52.2	52.2	52.2	52.2	52.2	52.2	52.2	52.2	52.2				
スペイン	45.7	30.1	30.1	46.0	55.5	48.0	52.5	48.0	51.0	48.3	52.9	56.5	57.7	59.4	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5				
インドネシア	45.7	30.1	30.1	46.0	55.5	48.0	52.5	48.0	51.0	48.3	52.9	56.5	57.7	59.4	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5	56.5				
オーストラリア	45.5	31.4	45.4	50.5	52.2	51.0	51.7	54.0	51.7	54.0	51.7	54.0	51.7	54.0	51.7	5																				

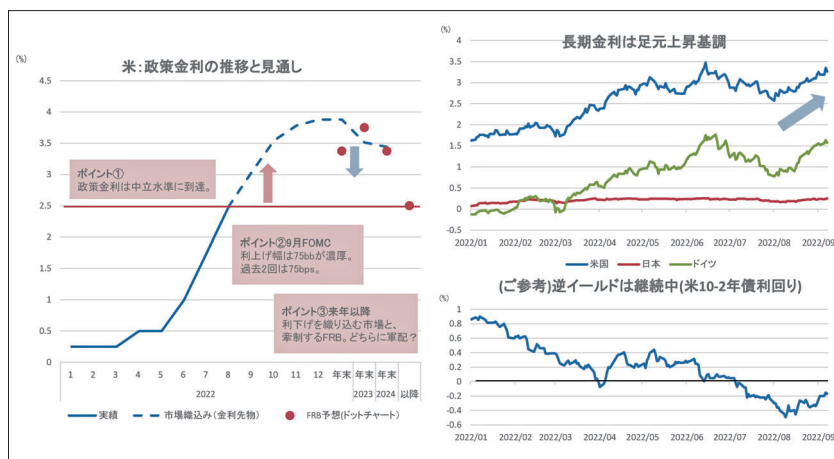
資料4は、こうした世界の状況を踏まえて、米国がどういう金融政策をとっているのかがこのページです。強烈なインフレを受けまして、2022年3月からFRBは利上げを開始しました。それまで長きにわたって金融緩和が世界じゅうで続いてきましたので、この3月は結構歴史的な月になりました。

その後、6月以上、通常の3倍の幅である75ベースポイントの利上げを毎月実施していった。利上げの幅ですが、25ベースポイントを1回利上げして、その次の会合は様子を見るというのがよく見られるような利上げのパターン、ペースとなりますので、幅自体は3倍ですが、休みなく毎回利上げをやっていたので、実質6倍速と言えるくらい、かなり急激な金融引き締めペースが今行われていることになります。

政策金利は、既に景気に対して中立的といわれているような中立金利2.5%の水準に達していますので、ここから先9月以降、利上げを実施していくと、ようやく景気を冷やす効果がある引き締めの水準になっていくことになります。

昨晚発表された米国の消費者物価指数も非常に強い内容になっていましたので、市場では9月のFOMCでは、また75ベースの利上げが確実に行われ

資料4 金融政策と金利動向





セミナー会場風景

るだろうと見られています。これを受けて、今まで何とかかんとか耐えてきた株式市場も大幅に下落しているというのが、昨日の夜と今朝の状況になります。

右上の表を見ていただくと、日本を除いて、欧州も米国もどんどん金利を上げていっているのがよくわかるかと思います。

ここでちょっと問題になってくるのが、右下の表ですが、米国の10年債利回りと2年債利回りの差になります。通常は長い期間の国債の金利のほうが高いのが当たり前ですが、それが逆転している状態になっています。これは逆イールドと呼ぶのですが、何を示しているかという、先々の景気が足元の景気よりも弱くなると市場が予想しているゆえに、足元の金利が先々の長期金利に比べて安くなる。これはリセッションの兆候、景気後退の兆候といわれています。

今後のポイントは、インフレがおさまらずに引き締め的な高い水準の金利が長期化していくのか、早期に景気後退に入ってしまうことで、インフレも金融引き締めも比較的早く済んでしまうのか、この辺に市場の関心が移ってきています。

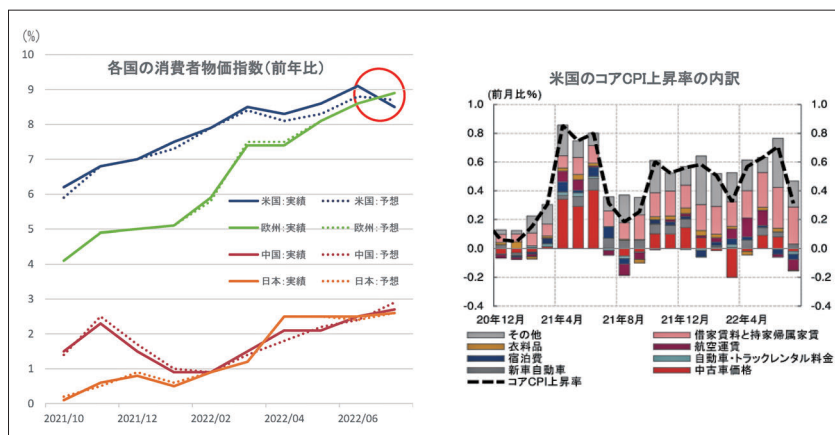
資料5は、米国のインフレの状況です。先ほど申し上げた消費者物価指数は、かなり高い数字になっています。7月に9%に乗せたというのが数字としてはピークになっていまして、その後、8月になって少し下がっている。先ほど発表された9月のものも8.1%と、少し下がっているということです。しかし、前年対比で8%以上の消費者物価の上昇ですので、尋常ではない数字なわけで、極めて高い水準がまだ続いている状態になります。

米国は、そうはいっても頭打ちになっているように見えるのですが、緑の欧州は引き続き上がり続けているという状況です。これは先ほど申し上げたエネルギー価格の上昇とか、ライン川の水位低下による供給制約によって、引き続き上昇しているということです。

右側は消費者物価の構成です。一見、米国は解決に向かっているように見えるのですが、8月以降、CPI、消費者物価指数が少し下がっているのは、コモディティ価格が少しずつ下がってきているのが中心で、より粘着性が高い賃金や家賃が下がってこない限りは、インフレが高い水準で推移してしまうと見られています。

これが、FRBがこの先も利上げを継続せざるを得ないのではないのか、その水準を長期にわたって保たなければならないのではないかと市場が見始めて

資料5 米国のインフレの状況



いる要因になっています。

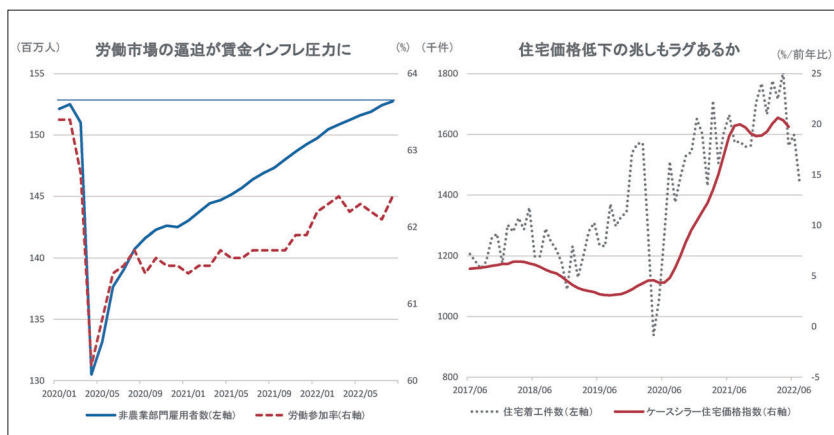
資料6は、労働市場と住宅価格を示したものです。左側は労働市場の逼迫状況を示しています。コロナで非常に失業率が上がって、労働市場が緩んだのですが、その後、急激に米国経済もどんどん再開し始め、そのわりには労働者が戻ってこないということで、労働市場は非常に逼迫した状況が続いています。これが全く改善してこないというのが今の米国の労働市場の状況で、賃金もどんどん上がり続けているという状況です。

右側は住宅価格ですが、こちらは少し頭打ちになっているような感じが見てとれるかと思います。これは売買価格ですので、これが家賃に対して効果が出てくるには一定のタイムラグが必要といわれていますので、家賃が下がってくるまでにもう少し時間が必要ではないかといわれています。

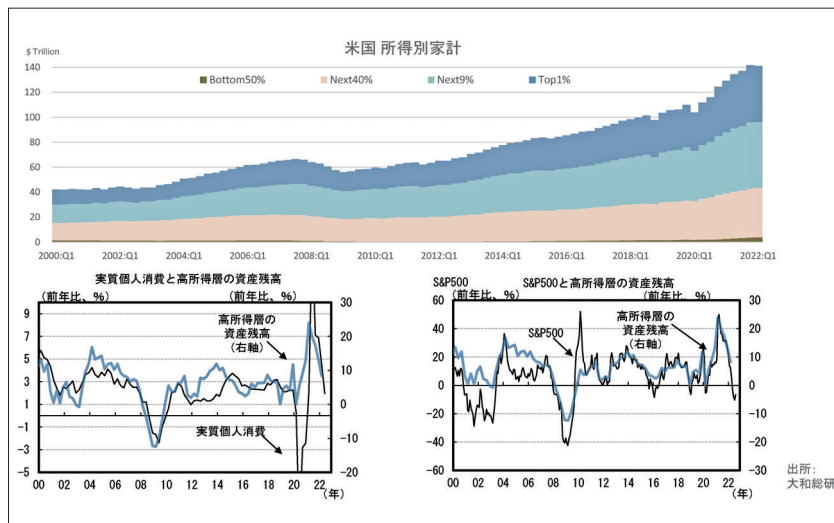
今後のポイントは、この雇用のところが下がってこないと個人消費が下がってきませんので、この個人消費をいかに冷やしていくかというところになってきます。

資料7は、米国の家計余力の内訳を見たものです。米国の所得別の家計を示したのが上のグラフですが、金額ベースで総額の7割をトップ10%の富裕層が握っているのが米国の家計の内訳になっています。

資料6 インフレ収束へ、今後のポイント



資料7 株価と家計余力



左下のグラフは、高所得者層の資産残高と実質の個人消費ですが、これが極めて高い相関を示していることが見てとれるかと思います。これだけ富裕層が所得の多くを占めていて、富裕層がお金を使うから個人消費が強い。

では、どうやったら富裕層の消費を冷やす事が出来るだろう？というのが右側に示したものです。富裕層の資産残高はかなりの部分を株で占められているがゆえに、S&P500指数との相関が極めて高くなっている。FRBがここからインフレを本格的に抑えていこうと思った場合、ある程度株価を落としにいかないと、彼らとしてもインフレ抑圧の実感をなかなか得にくい、というのが今の状況かと思います。

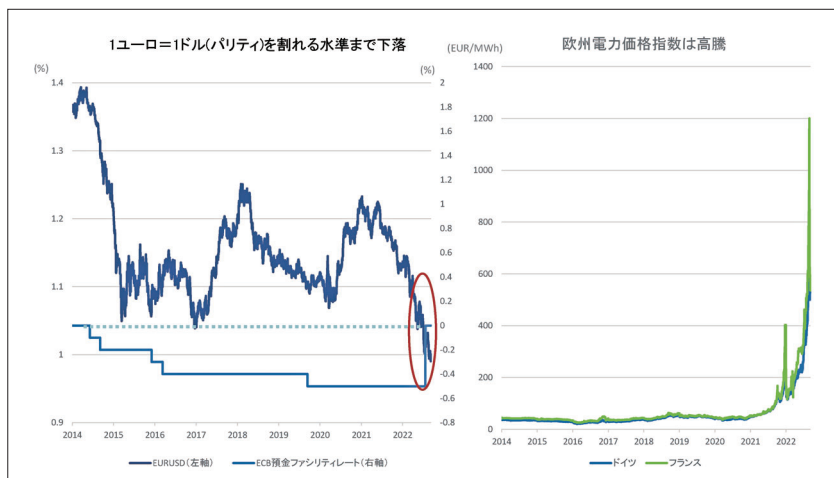
資料8をご覧ください。米国の株価は、5月・6月と調整して、7月・8月は少し戻して、また昨日の消費者物価を受けて調整していますが、市場平均PERの水位を見ると歴史的に平均水準は15倍程度。足元の株価はようやくその水準に近づいてきているものの、まだまだ割安な水準まで落ちてきているとは言えません。FRBとしてももう少し落としにいくつもりで金融引き締めを継続する可能性が高いのではないかと見ています。

資料 8 足許の株価水準



資料 9 は、今度は欧州の状況です。先ほど欧州はひどいという話をしましたが、米国以上に厳しいインフレに見舞われています。特に深刻なのが天然ガス価格です。

資料 9 欧州の状況



右側は電力価格ですが、急激に上がっていつているのを見てとれるかと思
います。これだけ急激な勢いで燃料価格が上がりますと家計に与える影響は
極めて深刻で、景気減速懸念が米国以上に強い状態ですが、この状況下でも
欧州の中央銀行ECBは、9月も75ベースの利上げを決定しています。

これだけ景気が厳しいと、通常であれば緩和的な水準を保ちたくなるのです
が、それではユーロ安がどんどん進んでしまう。ユーロ安が進むと、輸入物価
が上昇する。天然ガスの輸入価格がどんどん上がっていつてしまうと、エネ
ルギー価格がより深刻化していくという、悪いスパイラルに入っていつてしま
うということで、決死の覚悟で臨んだ利上げであった。これだけ決死の覚悟で利
上げをしたにもかかわらず、ユーロ安はとまっていない、今朝も1ドル=1ユ
ーロのパリティを割れた水準まで売り込まれているということで、ユーロ圏は
打つ手がなかなかないという、非常に頭の痛い状況になっています。

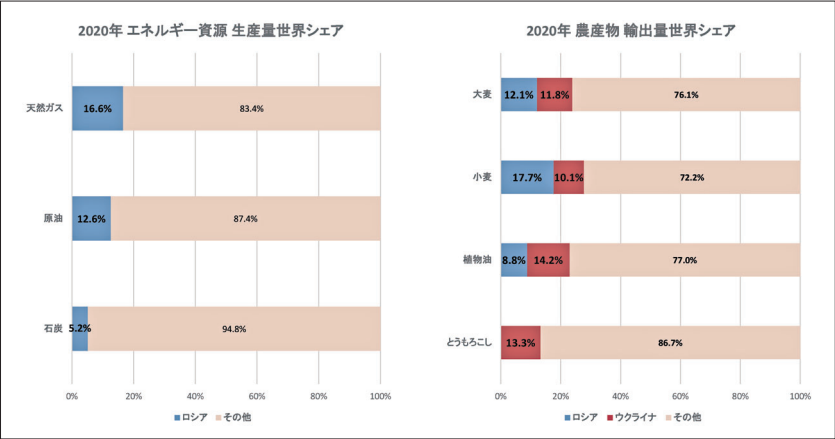
これに加えて、ユーロ圏は多国籍経済圏ですので、これを取り仕切るECB
の金融政策は、米国のFRBに比べても非常に複雑な舵取りを迫られ、思い切
った合理的な措置がとりづらい傾向にあります。これもユーロを投資家が売
る材料になってしまっているということです。

資料10をご覧ください。この欧州に大きな影響を与えているのがロシア、ウ
クライナの問題です。これは欧州だけではなく、世界的なインフレのきっか
けになった問題で、ここは皆さんのほうがお詳しいかと思いますが、ロシア
とウクライナは、どこの国でも生活に必要不可欠なエネルギーと食糧で非常
に高いシェアを有していたことから、欧州だけではなく、広い範囲に影響が
及んだと。

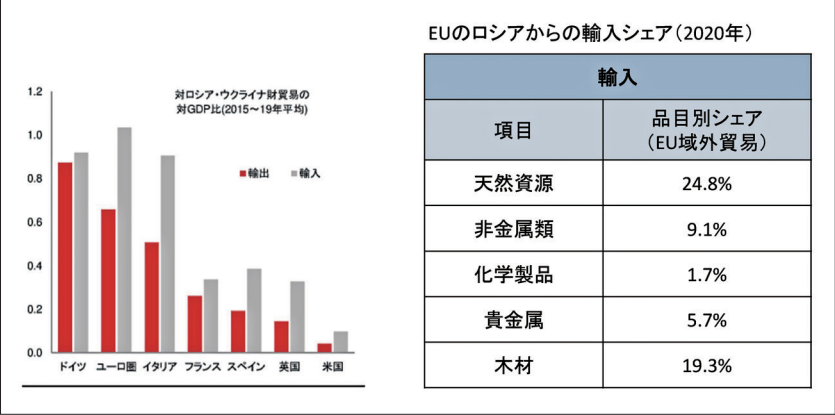
資料11は、ロシアに対してEUがどれだけ依存してきたのかを示したグラ
フと表です。左のグラフをご覧くださいと、ユーロ圏は非常に高い依存度で
あった。その中でもドイツは、突出してロシアへの依存度が高いことがわか
ります。

もともとドイツは、ロシアとの融和を進めるためにも、積極的にロシアの
天然ガスを政策的に輸入してきた。結果として、ロシアのエネルギー依存度

資料10 ロシア・ウクライナの主要輸出入品



資料11 EUのロシアへの依存度



が高まってしまった。その状態で今回の戦争に突入してしまったので、ドイツはユーロ圏の中でも特に困った状況に陥っているわけです。

次は資料12。ようやくドル円のチャートが出てきましたが、かなり高い水準までうなぎ登りになっているのを見てとれるかと思います。赤いグラフが日米の5年債の金利差で、青いのがドル円ですが、ここまで急激に円安が進んできても、かなり金利差に呼応する形での上昇になっているのを見てとれ

資料12 ドル円の動向



るかと思います。

なので、よく投機的な動きによって円が売り込まれている、ドルが買われているという報道も出てきますが、かなりファンダメンタルズに沿った、地に足のついた円安であることがわかるかと思います。

夏場は景気後退懸念から米金利が一時的に低下していましたので、このタイミングでドル円の調整をしています。その後も日銀は金融緩和の継続を堅持しているということで、ここが変わらない限り金利差は開いたままですので、調整したといっても、130円を大きく割り込むような水準に調整するのはなかなか難しく、130円で跳ね返されてしまった。

この先どうなっていくかということ、為替相場は、先に先に織り込もうとする習性がありますので、歴史的には利下げが始まるのを待たないで、金融引き締めがピークに達したなというのを確認したところで、相場が反転するケースが多いんですね。

今回もその可能性が高いと思っているのですが、引き締めの金利水準が下がっていくのはなかなか難しそうだなと見ていまして、ピークには達したけど、米金利が高い水準でしばらく推移するとなると、キャリー取引が非常にやりやすい環境になってしまいます。

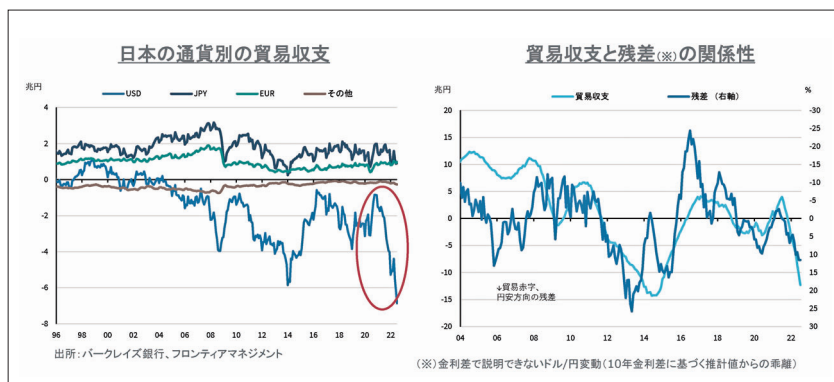
キャリー取引とは、円で調達してドルで運用する取引ですが、これが定着してしまうと、大きく円高に戻るということではなく、5円、10円程度の調整をして高値圏で長期に推移することになりやすい状況になってしまうのではないかと思います。

資料13をご覧ください。もう一つ、円安の要因といわれるのが貿易収支になります。左側が貿易収支を通貨別に分解したのですが、水色の一番下をはっているのがドル建の貿易収支です。資源高を背景にして、ドル建の貿易赤字が非常に大きく拡大しているのがよくわかります。

岸田政権も何も対応策をとってないわけではなくて、先日も「7基の原発を再稼働します」という報道があったかと思います。これがどれくらい影響があるのかを簡単に試算したものがあります。右側は貿易収支と残差の関係とありますが、残差とは何かというと、先ほど円安の要因は、かなりの部分を金利差で説明できると申し上げましたが、金利差の影響を円安から取り除いた残りの部分が残差になります。これを貿易収支と比べてみると、非常に高い相関性があると。

この残差と貿易収支の関係から、今回の原発再稼働によって貿易赤字がどれくらい縮まるかという、ざっくり言って30～40銭程度しか改善しないのではないかというレベル感です。

資料13 貿易収支と為替



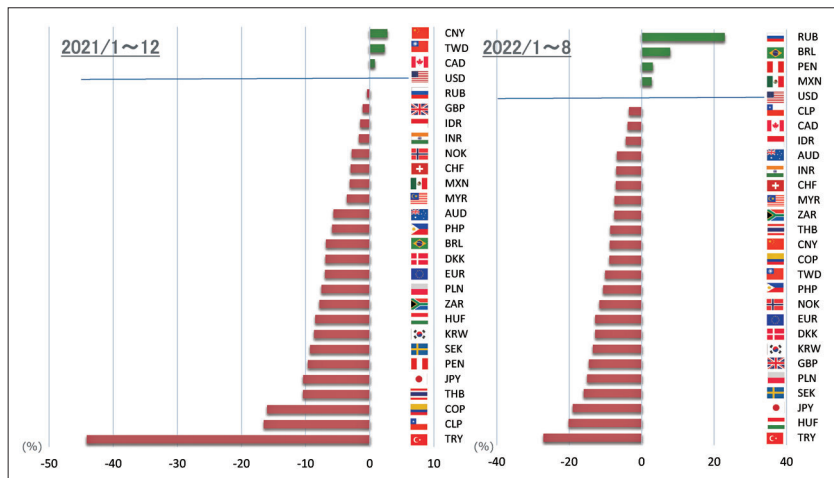
従い、23基の原発を全部再稼働したところで、10円とかというレベルで円安が改善するようなものにはならないだろう。産業構造を変えていくとか、インバウンドがコロナ前と同じようなレベルで外国人がどんどん日本に入ってくれることにならない限りは、大幅な改善は貿易収支の観点からは望みにくいだろうと見ています。

資料14は、年初来の各国の為替のパフォーマンスになります。21年と22年を横に並べていますが、ともに金融引き締めにひた走っている米国、ドルの強さが際立っている、ドルが多く通貨に対して強いのがよく見てとれるかと思えます。

22年はコモディティ価格が高騰していたこともあって、資源国通貨が相対的に強い。ここで注目したいのが日本の弱さですね。日本と同程度に売られているのは、もはやハンガリーフォリント、トルコリラ、アルゼンチンペソとかというレベルになるわけです。これは危機的な国の通貨と見られていますので、それと同じレベルで売られているのは、日本が極めて弱い立場にある国であると投資家からは見られているということです。

次は資料15です。これだけドルが強い環境が続きますと、新興国から資金

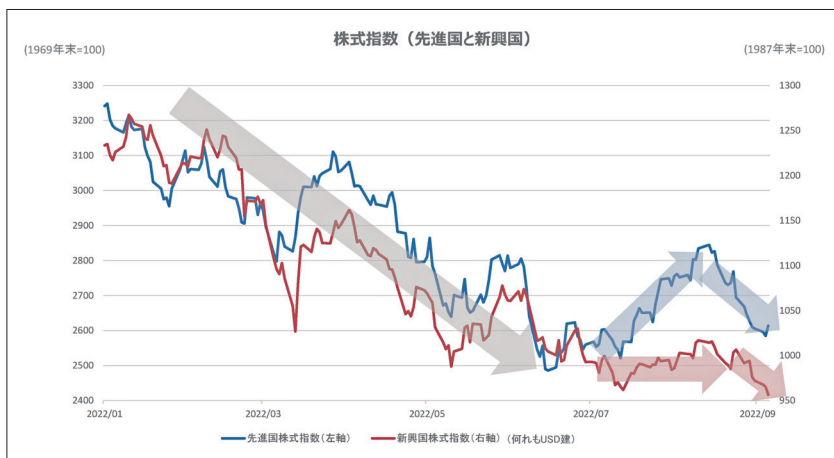
資料14 為替年初来リターン



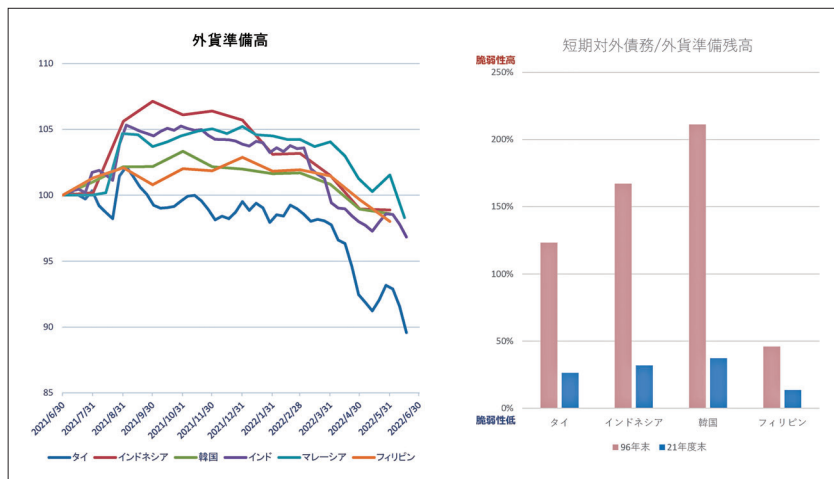
流出が起こりやすくなる。株式市場で先進国と新興国の株価指数を比較してみますと、2022年初頭から新興国市場は一貫して下落基調が続いているのがよくわかります。

次は資料16ですが、「これだけ下落基調が続いていて大丈夫なの？ キャピタルフライトは起きてないの？」ということを見てみますと、確かにアジア

資料15 株式市場の状況



資料16 アジア諸国の耐性



各国の外貨準備は減少傾向にあります。かつて、こういう形で資金流出が起きて外貨準備がどんどん減っていくと、通貨危機が起こることが懸念されてきました。

右側の棒グラフは、各国の短期の対外債務と外貨準備の割り算をしたもので、この棒が高ければ高いほど危機に対して弱い、通貨危機が起こりやすいわけです。ただ、各国ともにアジア通貨危機のときに学んでいまして、外貨準備を潤沢に蓄えていて、通貨危機みたいなことが起こるような心配はなさそうだし、まだまだ安全な水準にいるな、ということがわかりますので、そういう意味でのドル高による通貨危機懸念は、まだ大きくはなってないと思います。

資料17をご覧ください。ここまでおさらいをしてきましたが、この後どうなっていくのかというドル円の予想レンジを最後に示させていただきます。足元の水準、これはどんどん変わっていってしまうので、9月9日の水準になっていますが、今は143円くらいになっていますかね。2022年のレンジとしては、113円から始まっていますが、オーバーシュートすると、148円くらいまではいく可能性はあるかなと思っています。

資料17 ドル円予想レンジ

市 場	現状レベル (9月9日終値)	2022年 (レンジ 実績込)	2023年 (コアレレンジ)
米ドル/円	142.47	113～148(*)	125 ～ 135

(*) 2022年は1月から足許迄の実績を含め反映。

期間	予想コアレレンジ	2022年下半年以降の相場予想/今後の主要イベント
Oct 22 - Dec 22	140 ～ 145	【相場予想】 ➢ 日米金融政策のコントラストから円安ドル高の大きなトレンドは継続。 ➢ 欧米での金融引き締め環境の長期化やその後の景気後退懸念を材料に、調整を挟みながら140円付近をレンジで推移する展開を予想。 ➢ 円安の根本原因である日銀金融緩和の修正がない限り、調整幅は限定的で、短期的には130円を割り込むことは予想しにくい。 ➢ 今後、資源高の一服等で本邦貿易収支の改善があれば、円高への進行もあるか。
Jan 23 - Mar 23	135 ～ 140	
Apr 23 - Jun 23	130 ～ 135	
Jul 23 - Sep 23	125 ～ 130	【主要イベント】 (米) FOMC(9/20-21)、雇用統計(10/7) (欧) 消費者物価指数(9/16) (日) 日銀金融政策決定会合(9/21-22)
Oct 23 - Dec 23	125 ～ 130	

ただ、145円に近づいてきたところで、ようやく為替介入みたいな話も実際に出てきまして、先ほども講演の準備をしている段階で、日銀がレートチェックする、日銀が為替介入するためのレートを銀行に確認するという報道が出ていたことから、投機筋も警戒をし始めているので、145円にとまってくれるとうれしいのですが、先ほど申し上げた通り、売る材料がたくさんある状態ですので、米国が利上げを緩める気がないと投資家が見れば、多少介入したところで、とまらないでオーバーシュートすることはないかと思っています。

23年のコアレンジは125～135円と書いていますが、キャリートレードがやりやすい状態が続いてしまう可能性が高いと見ていますので、23年は125円を割る水準まで円高で戻っていくことは想定しづらいのではないかと考えています。

ですので、少しずつ円安のレンジが多少下がってくるとは見ていますが、去年のレベルまで下がるのは、この2～3年のレンジではなかなか見えてこないのではないかと見ています。

私からは以上にさせていただきますので、ご質問等ございましたら、よろしくお願いいたします。

質疑応答

質問 為替で、円安の要因として金利差が大きいというお話をいただいて、私もその通りだと思いますし、一般的にいわれていることだと思います。日本の金利は、異次元の金融緩和からずっと安い水準で来ています。今後、日本は政策的に金利をどういうふうに持っていくのか、予想があれば教えてください。

藤田 非常に大事なポイントかと思います。結論から申し上げますと、金利を上げる打ち手がほとんどなくなってきていると見ています。日銀の方や政府の方とお話をしていても、思い切って金融引き締めの方に舵を切るのは難しいという声が多いですね。これだけ債務を膨らませている状態ですので、

他の国のように金融引き締めで金利を上げていくとなると、今度は財政が持たなくなってくることから、ある程度もう確信犯的に、他の国がインフレ対応で金融引き締めをしている中でも緩和を続けていくと。

そうはいつでも、インフレに対して中銀の責務として戦わなければいけないでしょうということで、海外のヘッジファンドからは、日本の国債に対して仕掛け的な売りをしてくるような動きが夏場にも見られたのですが、あまり投機筋の要求に対して反応すると、おかわり相場といわれますが、どんどん催促的な動きが出てきてしまいますので、黒田さんは目をふさいでしまう。「どれだけ売り浴びせられようと、日銀は全部買いますよ。緩和的な水準を保ちますよ」ということを続けていますので、この政策は少なくとも黒田さんが在任中では変える気はないでしょうし、来年、日銀総裁が変わりますけど、変わったところで大幅な引き締めへの変更は、恐らく手としては打てないだろうと見ています。

質問 日本はアベノミクスの際、インフレターゲットを2%としていましたが、インフレが長期間進まず、ここに来て2%程度のインフレでかなり大騒ぎになっていると思います。我々の業界では、たまたま穀物の国際相場が上がってしまったこともあるのですが、原料の仕入れコストが上がったのに対して、製品、特に畜産物は、多少高くなった気はするのですが、コストほど上がってない感じがあるんですね。

だから、ようやくアベノミクスのターゲットを達成したときに、今度は物価対策をしなければいけないという、ものすごく不自然な感じを持つわけです。要は、よくなるはずのターゲットを達成したときに、おかしくなっているのではないか、というのが、この業界にいて率直に感じるところです。その点について何かコメントをいただければありがたいです。

藤田 日銀としてはオーバーコミットメント型の政策をとっていると言っています。これは何かというと、2%を超えたら直ちに引き締めをするのかというと、そんなことはしなくて、多少のオーバーシュートは問題ないので、大事なのは安定的にインフレが続くことであるということで、このレ

ベルのインフレ、物価高であれば、全く問題はないというのが彼らのスタンスかと思います。

加えて今の物価高の要因は、日本の場合はコストプッシュ。本来的には、賃金が上がって、需要サイドから引っ張る形でのインフレにならない限りは、安定的なインフレサイクルには入らないということで、賃金が上がって需要サイドから引っ張る形になるまでは、少なくとも中央銀行として物価高対策をやっていくつもりはないのではないのでしょうか。

ただ、政府サイドは選挙がありますので、日銀とある程度歩調を合わせつつも、生活をする上での痛みの軽減をするような措置はとってくる可能性はありますが、物価高に対して直接的な対応は、大っぴらにはしないのではないかと見ています。

質問 資料7で、アメリカの所得は、トップ10%の人が6～7割くらい所得を占めていると。このグラフを拝見すると、所得の分配が非常に歪になっている、わかりやすく言えば貧富の差が大きくなってきている。中国も経済成長に伴ってそうなって、それが社会問題として懸念されるわけです。

日本も同じような傾向にあり、先ほどおっしゃったように、賃金の上昇に伴って、コストプッシュからデマンドプルに移行するのはすごく大事なポイントだと思いますが、そこにいくまでの間に富の分配がおかしくなってしまう、もっと社会問題になってしまうと私は心配になるのですが、その辺についてはいかがですか。

藤田 先ほどの数字を見てもわかるとおり、一見、米国経済は非常に強い状態が今も保たれているように見えるのですが、人口ベースで見たとき、みんながそんな幸せな状態になっているかという、富裕層が潤っている一方で、一般市民の間では電力の不払いなどがものすごく増えています。庶民の生活実感としては、恐らくかなり苦しい状態にはなっているはずです。

なぜそういうことになっているかというと、金融緩和をする＝資産価格を上げにいつているわけですね。その資産価格が上がったことで発生した余裕が賃金に対して波及していくトリクルダウン効果が狙いであり、米国の場合

は貧富の格差が開きつつも庶民の賃金も上昇しており、今もインフレの要因になっています。トリクルダウン効果は実現しているわけです。

ただ、日本の場合、日銀が金融緩和を進めたことによって、賃金が上がったのかというと、トリクルダウン効果はなかったわけです。デマンド側で引っ張ってくる形でインフレサイクルが回っていないので、インフレ対応という意味では、米国と欧州に比べると苦しんでないわけです。これは企業側が、企業物価がどんどん上がっているのに消費者物価を上げないように頑張っていて耐えているからというのがありますが、もう一方であるのが、デマンド側で引っ張ってくる部分が日本の場合は相対的に弱いかなと。

短期的に見ると、賃金が上がっていかないことで、インフレ率が他の国に比べてそんなに上がってないことはあるのですが、長期で見たときは、物価がどんどん上がっていくけど、賃金も上がっていくという形にならないと、国としての競争力は少しずつ落ちていくことになるだろうと思っています。

質問 日銀の為替介入がある場合、いつ頃に介入すると予想されますか。また日本が為替介入するとしても、148円は達成する可能性があるのでしょうか。

藤田 為替介入の時期は「何月です」というのはなかなか難しいところかと思いますが、介入を実施する条件として、何回も何回も介入できるものではないと思います。従い、効果が最大化されるタイミング、ドル高が行きつくところまでいって、FRBの利上げも大体やり切って、投機筋もこれ以上は買い進んでいく理由はあまりなく、どこで落ちるかビクビクしているという状況で、背中を押してあげるというやり方ではないかと予想しています。FRBがまだまだ利上げを継続する余地がありそうだと見られている限りは、日銀が単独で介入しても効果がないのは財務省も日銀もわかっていますので、まだ口先介入のレベルでもうしばらくは耐えるのではないかと見ています。

質問 資料17で、2023年のコアレンジの下が125円ということで、キャリートレードがやりやすいので、125円を下回することは考えにくいとのご説明でしたが、125円が目安になる理由は何でしょうか。

藤田 どこまで下がるのかは見通しにくいのが正直なところで、下がって

も130円くらいまでなのではないか、そこから±5円くらいで推移するのではないか、というところでの125円です。

前回の大幅調整でも130円程度のところで跳ね返っていますので、その辺で一たんとまるのではないかと。金利差が高い水準でキープされるとなると、その辺でキャリートレードするのが心地良い水準になってしまうのではないかと見ています。

ただ、いろんな方と話をしている中で、125円まで下がると見ている人はあまり多くなくて、どちらかというところ、これよりも上で停滞してしまうのではないかと見ている人のほうが多いのが実態ではないかと思っています。

質問 金利を上げるのはバリアが高いのは理解しましたが、他の手段として為替介入の話が出ました。円安からの為替介入は今まで経験がないもので、いま一ピンとこないのですが、ドル建外貨準備を取り崩すような感じなのでしょう。国際的にはアメリカ側には許容されるのでしょうか。どのくらいのドル円の水準で口先介入以上の話になるのでしょうか。

藤田 ご認識の通り、外貨準備を取り崩す形での介入になるかと思っています。これがそんなに珍しいことなのかというと、先ほど新興国の外貨準備の推移をご覧いただきましたが、あれは何で減っているかということ、彼らはもう介入しているわけですね。外貨準備を取り崩して、あまりにも急激に自分たちの通貨が安くならないようにスピード調整しているわけです。これは一般的な話になります。

日本は外貨準備をかなり多く持っていますので、多少介入する体力はある。ただ、日本が為替介入をする、ヨーロッパが為替介入をするというのは、インドネシアとかフィリピンとかあたりが為替介入するのとは、世界に対して発信されるメッセージのインパクトが違いますので、これは米国側としっかり合意が取り付けられない限りやらないだろうと考えております。

質問 為替がレンジ148円とおっしゃっていましたが、150円を超えてくる円安、もしくは160円にいく円安のきっかけ、要因、どういうファクターが揃ったら、そこまで到達するのかなど。我々は「ここまでいかないだろうな」

と思いながら、「あっ、140円台になってしまった」、130円を超えたときもそうですが、その要因を何個か教えてもらえたらと思います。

藤田 実際に150円オーバーを予想する人も増えてきています。トリガーとして何が大きく影響してくるかという点、先ほど新興国のところで少し名前が出てきましたが、キャピタルフライトが起こり始めると、ここはなかなかとまらなくなってくる可能性はあるなと思っています。

何かというと、我々も多くの人が円建預金で結構な金額を銀行に預けていると思いますが、「これを円で持っていてもしようがないよね」と、実際に国民全員がアクションを起こし始める、すなわち外貨建で資産を持っておこうとなりますと、円売りがとまらないわけですね。

円売りがとまらなくなってくると、さらに「円で持っていてもしようがなくなる」ということで、さらに外に持ち出すようになってくるようになる。こうなると、148円どころではない話になってきて、150円、160円、そのキャピタルフライトシナリオになって売りが売りを呼ぶような状態になっていく。

これをとめようと思うと何が起こるかと言えば、資本規制によって投機的に円を外に持ち出せないようにしていく。これは新興国でよく行われていることですし、先ほど各国通貨別のパフォーマンスが出てきたところで、ロシアはガチガチに資本規制をかけているわけです。そういうことをやらないと、とまらなくなるようなシナリオもあろうかと思っています。

質問 米国で金融引き締めが長期化する場合、来年もドル高／円安を基本路線と見ておけばいいのでしょうか。また資料17にドル円予想レンジがありますが、これは資料4の米国金利の推移をベースに予想されているものでしょうか。

藤田 そうですね。ここは毎月毎月状況が変わってきているところではありますが、いわれているのは、23年も引き続き引き締めの水準、ピークでは米国金利4%程度で、その後少しずつ引き下げていくということです。先ほど中立金利2.5%という話をしましたが、それを下回る水準に下げていくの

が2024年以降といわれていますので、少しずつ下げていくにしても、4%から3.5%になって、3%になって、その間も恐らく日銀はほとんどゼロ金利に近いような状態を保つことになりますので、金利差が大きい状況が長い期間続くわけですね。これが高い水準で続くとなると、金利差が多少下がっても、これくらいの水準で推移するのではないかと見ています。

質問 日本の賃金上昇率は各国に比べて低いといわれている中で、物価上昇に耐え得る賃金上昇まで示していないとのことですが、物価高で倒産件数も増えているとの印象です。景気減速のほうが早いのではないのでしょうか。それでも日銀は動きませんか。

藤田 動かないと思います。なぜならば、金融引き締めをすると、恐らくさらに企業倒産が増え、景気はさらに減速することになります。日銀として景気減速を防ぐために再度緩和というのは避けたいはずですので、物価倒産を防ぐために引き締め方向に動くというのは考えにくいではないかと思います。

景気対策をしなければいけないとなった場合にあるとしたら、政府側が財政出動するかどうかという話になってくるのではないかと思います。

それを実際にやっているのがイギリスで、中央銀行としては、インフレと戦わなければいけないので引き締めをしているのですが、政府としては財政出動して、景気を支えにいかようとしている。これは一見、国民にとってはいいように見えるのですが、そうするとインフレが終わらないので、結局、長い目で見たときに国に与えるダメージが大きくなってしまうということで、イギリスのポンドは、最近かなり大きく売られている状態になっています。

インフレを物価高ととらえるとわかりにくいのですが、通貨価値が落ちていることになりますので、高いインフレ率が継続することは、中央銀行としては、自分の国の通貨の価値をコントロールできなくなっている状態、コントロール不能状態になっていくということです。これは、かつてアルゼンチンとかがハイパーインフレに陥ってとかというニュースを皆さんもよくご覧になったと思いますが、そういう状態になるのは中央銀行にとっては一番

怖いわけですね。なので、インフレはコントロールできるレベルのうちにたいておかないと、通貨コントロールもきかなくなって暴走状態になってしまうということで、みんな必死になって戦っているということです。

質問 今のお話は、金融引き締めする可能性はあまりないということでしょうか。

藤田 そうですね。少なくとも「物価が上昇することで景気が悪化するから金融引き締めを行う」ということはあり得ないと思います。あるとすれば、他の先進国と同様に、インフレがコントロールできなくなるを防ぐために、景気を犠牲にしても、財政を犠牲にしても金融引き締めをするというのはあるかもしれません。景気の減速は許容できるかもしれないですが、日本の場合は犠牲にする財政問題が大き過ぎると思います。財政問題を大きくし過ぎると、これはこれでまた円の信認問題となり、結局はより円が売られる結末となってしまいます。

質問 先ほど、FRBが利上げをやめたタイミングで為替介入を行うというお話がありましたが、為替介入を行った場合、一気にガッと下がる感じなのか、それとも緩やかに下がっていく感じなのか、どちらなのかを教えてください。

藤田 為替介入を行うタイミングとしては、先ほど申し上げたように、ちょっと背中を押してあげたらドンと下がるというタイミングでやると思いますので、下がる時は一気に下がると思います。投資家としてもそれを怖がって、円売りがなかなかできなくなることになりますので、下がる時は一気に下がると思います。

司会 それでは、これで本日のセミナーを終わりにしたいと思います。藤田様、ありがとうございました（拍手）。

編注：文中資料は、全て三菱商事㈱財務部提供です。

釜石港コンテナ物語

釜石市役所産業振興部国際港湾産業課

中平 貴之



■はじめに

釜石市という名前を聞いて、恐らく大半の方はラグビーを想起されるかもしれません。

かつて北の鉄人と呼ばれ、日本選手権7連覇という偉業を成し遂げた、新日鐵釜石ラグビー部（現・釜石シーウェイブス）をはじめ、近年では、釜石市がラグビーワールドカップ（RWC2019™）日本大会の国内12会場の1つに選ばれ、大会期間中、日本中を興奮と感動の渦に巻き込むなど、ラグビーが街の大きなレガシーとなっております。



RWC2019™ 開会セレモニー

一方、釜石市は古くから鉄と魚のまちとして栄え、日本全国から人々が集まり、朝まで街が煌々と輝き眠らない様は、東北の上海と呼ばれていたそうです。

安政4年（1858年）、日本で初めて洋式高炉による連続出銑に成功し、明治7年（1874年）には、官営製鉄所が建設され、以来、現在にいたるまで脈々と鉄づくりが続けられております。日本国内において近代製鉄発祥の地とされる所以でございます。

釜石市では、新橋－横浜間、大阪－神戸間に続く国内3番目となる鉄道が明治13年（1880年）に開設されており、日本の産業革命をリードしていた時期もございました。

ゆえに、釜石市は先の太平洋戦争において、日本本土で最初の艦砲射撃のターゲットとされ、米英連合艦隊による2度にわたる砲撃を受け、被災者1万7千人、市街地が焦土と化すといった悲痛な記録も残されております。

その後、戦災復興と戦後の高度経済成長によって、徐々に街は輝きを取り戻していくこととなりましたが、言うまでもなく、地域の経済成長は「みなと」によって支えられ、釜石港も古くから国際貿易港として機能し、成長を続けてまいりました。

明治の初め、釜石は、東京と函館を結ぶ海運の中間補給地点として重要なロケーションにあったこと、官営製鉄所建設前夜だったことから、釜石港は明治5年（1872年）に「海図第一号（「陸中國釜石港之圖」）」として描かれました。このことから、その重要性を垣間見ることができます。折しも令和4年（2022年）は、海図刊行150周年という節目の年にあたります。

国際貿易港として機能する一方、過去に幾度となく津波に襲われ、尊い人命と財産を失ってきた悲痛な歴史も有しております。このため釜石港は、Deepest Breakwater としてギネス世界記録にも認定されている、湾口防波堤によって強固に守られております。昭和53年（1978年）から、恒久的津波対策として、水深-63mの海底から防波堤を築造するという、世界でも例を見ない国家プロジェクトが進められ、31年の歳月を経て、平成21年（2009年）



湾口防波堤ギネスプレート

3月、ついに完成を見たところです。

■釜石港のコンテナ物語

湾口防波堤建設前夜にあった昭和52年（1977年）、釜石市誌「通史編」が刊行されました。この中に、郷土の先人達が思い描いた、まさに未来予想図とも受け取れる興味深い記述があります。

「いま、釜石は、鉄と魚の二大柱を市勢発展の軸とし、加えて流通港として、岩手の海の玄関として位置づけるために、これら二本の柱に深い関連性をもち、しかも、その柱をささえる土台ともなる港湾環境の整備を進めようとしている。港湾整備にとって最大の要件は、湾口大防波堤の建設であり、このことは、津波襲来の宿命から市民の生命財産を守るという基本的施策の上になって、釜石の再開発最大の課題解決がその緒につこうとしている。高度経済成長の時代に対応して、釜石が、広域経済圏の流通港として、また、鉄と魚の調

整の上になつて、港の開発が進められるなら、人口の動態も変わるであらう。」

四方を海に囲まれた我が国において、47都道府県中、海に面する39都道府県には、必ず1つは流通港湾が存在します。

しかしながら、岩手県をクローズアップしますと、久慈港、宮古港、釜石港、大船渡港の4重要港湾に加え、八木港、小本港の2地方港湾、計6つの港湾が存在しますが、他県と競い合うほどの力を有する本格的な流通港湾は不在の状況でした。岩手県総生産額（岩手県産GDP）は、他県の流通港湾によって支えられ、他県の流通港湾の成長と投資を促しました。その結果、利便性が増した他県の流通港湾周辺への産業立地を促すなど、他県の経済発展に大きく貢献したと言えなくもありません。

「岩手県産GDPを、みすみす他県に流出させても良いものだろうか？岩手県産GDPを、岩手県全体の経済発展、飛躍・成長に活かせないものだろうか？」

釜石港のコンテナ物語は、ここから始まりました。

釜石港は開港以来、特定少数企業の特定期品目を、一挙大量に扱うといった工業色の強い港湾として形作られてきたため、あらゆるシーンにおいて決まり文句の如く、釜石市には経済発展の要として釜石港がある、とは言いつつも、その恩恵を受ける個人・企業は限定されておりました。

あらゆる個人・企業のあらゆる品目を、運びたい時に運びたい量を、タイムリーに全世界へ輸出、若しくは輸入できる素地が整ってこそ、工業港湾から流通港湾への飛躍、国際貿易港に生まれ変わることを頑なに信じて、国内最後のフロンティア、岩手県において、一刻も早く確固たる地位を構築すべく、社会経済情勢の変化の波にもまれながらも、粛々とコンテナ定期航路開設に向けた取り組みを進めてきた次第です。

紆余曲折を経て、本邦初の試みとして、平成21年（2009年）12月には、港湾管理者ではない港湾所在自治体の手によるコンテナ荷役機械の整備を果た

しました。人口3万数千人程度の一地方都市にとっては極めて大きな挑戦で、コンテナ荷役機械の整備費用として総額3.2億円を投じました。失敗は許されません。

コンテナ荷役機械の整備以降、強迫観念にかられつつコンテナ定期航路開設に向けて奔走しました。全国的に実施されている港湾セミナーを模倣し、釜石港コンテナ航路セミナーを開催し始めたのも丁度この頃です。なかなか理想通りには物事が進まず、地団駄を踏んでいた矢先、平成23年（2011年）3月11日、東日本大震災という未曾有の危機に直面することとなりました。

■運命の日

突如襲われたマグニチュード9.0。私は慌てて執務室の出入口を固定し、屋外に飛び出しました。

いつまで経っても止む気配のない大きな地震動。気が付けば道路の中央で同僚2人と手を組みあい、横に大きく揺れる老朽化の著しい庁舎や電信柱が倒壊しないよう祈りつつ、何とも言い表せぬ不安の中、只々地震が収まるのを待っている自分がおりました。

「津波だ!!」何処からともなく聞こえてきた叫び声。私はひたすら高台めがけて走り出しました。歩道橋の中央でふと立ち止まり、市街地の方向を振り向くと、その瞬間、眼前には海側から陸側の方向へ、地理的には東の方向から西の方向へ流れる大きな濁流が、いとも簡単に家々や車を押し流す光景が視界に映りました。

「全てが終わった・・・」当時、失われた20年と呼ばれる経済不況の中にあって、釜石港においてはようやく希望が見えてきた矢先だっただけに、正直、その絶望感に打ちひしがれました。

四方を瓦礫で塞がれ、逃げ道を失った市民、老若男女約500人を引き連れて山越えし、釜石港を一望できるお寺へとたどり着いたのはその日の夕刻。私はここで約1カ月間、避難所運営業務に従事することとなりました。

釜石港のコンテナ荷役機械はどうなっただろうか……。心にバッファー

が生まれたのは翌朝のことでした。公共ふ頭を望むと、ギネス世界記録を誇る湾口防波堤が身を挺して津波の威力を弱めてくれたせいか、瓦礫が散乱する中であって、ジブクレーンとストラドルキャリアは、津波をものと



奇跡のコンテナ荷役機械

もせず、光明に照らされながら直立不動している奇跡的光景が眼前に広がりました。

「いけるかもしれない!!」その瞬間、僅かではありますが、自分の中に再び生きる勇気と希望が湧いたのを今でも鮮明に記憶しております。

前述した湾口防波堤は、全長1,960mのうち、1,540mが倒壊しました。しかし、このおかげで、ジブクレーンとストラドルキャリアは守られました。沿岸の家、工場などは津波で大きな被害を受けたものの、湾口防波堤がなければ釜石の街が壊滅したとの試算もあります。私が抱いた勇気と希望は現実のものになりました。

■最後のフロンティア

コンテナ…。果たして本当に国際貿易のスタンダードになり得るかどうか、国内議論が紛糾していた時代もありましたが、世界の潮流を見れば答えは明らかにYESとなります。

釜石港においてコンテナが産声を上げたのは平成14年（2002年）のこと。釜石港臨海部に立地する日本製鉄株式会社北日本製鉄所釜石地区（以下、日鉄釜石）で生産され、世界最高品質と呼ばれる線材。このトライアル輸出に向



コンテナ船初寄港

けて、当時、京浜港と仙台港間を航行していた近海郵船株式会社の恵寿丸（499GT 船）が釜石港に初寄港しました。

平成 2 年（1990 年）に国際フィーダーコンテナ定期航路が、平成 7 年（1995 年）には並行して外貿コンテナ定期航路が仙台港に開設されており、東北地方では、丁度この頃からコンテナ輸送のニーズが高まりを見せていったものと推察されます。

釜石港に国際フィーダーコンテナ船（以下、国際 F コンテナ船）が初寄港した平成 14 年（2002 年）当時は、1 パースしかなかった公共ふ頭の 3 パース化に向けた拡張整備が、平成 19 年（2007 年）3 月末の完成を目指して鋭意進められていた時期と重なります。公共ふ頭拡張整備完了後のコンテナ定期航路開設が、自ずと必達目標として設定されていくことになったのは言うまでもありません。

前述のとおり、当時、海に面する 39 都道府県中、本格的なコンテナ流通港湾が未形成だったのは唯一岩手県のみで、私は国内最後のフロンティアと呼び、事を急いでいました。

■30.5tの壁

なぜ、それまでの間、岩手県にだけ本格的なコンテナ流通港湾が形成されていなかったのでしょうか。岩手県は東北地方でも有数の工業集積地である北上市や金ケ崎町といった市町村を抱えているにもかかわらずです。答えは至極簡単で、ISO規格により最大総重量30.48tと定められているコンテナの荷役を可能とする荷役機械が存在していなかったため、コンテナ船社側からしてみれば、コンテナの荷役能力の低い港は全く興味の対象にならなかっただけの話と推察されます。

平成14年（2002年）の国際Fコンテナ船初寄港以降、コンテナ荷役は、日鉄釜石が所有する専用岸壁・荷役機械で行われていました。平成18年（2006年）の暮れ以降は、船会社が近海郵船から井本商運株式会社に代わり、トライアル寄港が繰り返されていくこととなりましたが、同社として初寄港に供された神若（749GT 船）の荷役もまた、同専用岸壁・荷役機械で行われています。

平成19年（2007年）3月、公共ふ頭の拡張整備完了と同時に釜石市は1つの大きな方針を固めました。港湾所在自治体によるコンテナ荷役機械の整備です。そもそも4つの重要港湾を抱える岩手県が、特定の港湾に対して核心的な投資を行うことが困難であることを我々は承知していました。

コンテナ定期航路開設に向けて、コンテナ荷役機械の整備は待ったなしの状況です。

港湾管理者（岩手県）がコンテナ荷役機械を整備するための整備スキームはあっても、港湾管理者ではない港湾所在自治体（釜石市）が同機械を整備するという事例は国内に例がなく、当時、先見的取り組みとして高く評価され、結果的に、釜石市が90%の株式を所有する第三セクターである釜石港物流振興株式会社を設立し、同社が国土交通省より新規補助制度による支援を受け、当該補助制度国内第一号施設として整備を進め、平成21年（2009年）12月、ジブクレーン1基、ストラドルキャリア1基の整備を果たしました。

■流通港湾への試金石

しかしながら、釜石港におけるコンテナ荷役機械の整備が進む一方、平成20年（2008年）9月に発生したリーマン・ショック、サブプライムローン問題に端を発する世界金融危機によって、想定していたベースカーゴは消失していました。ここで、コンテナ定期航路開設に向けて、本当の意味で釜石港の真価が問われることとなります。

コンテナ荷役機械を整備した手前、路頭に迷っている暇はありません。平成22年（2010年）7月から岩手県全域でのコンテナ貨物集荷に向けたローラー作戦を展開したほか、平成22年（2010年）11月には、岩手県最大の工業集積地である北上市を会場に、記念すべき第1回釜石港コンテナ航路セミナーを開催するなど、精力的にポートセールス活動を展開しました。

また、コンテナ荷主に対するインセンティブ制度を創設、運用を開始したほか、ダブルインパクトとしてコンテナ荷役機械使用料の減免を図るなど、コンテナ取扱港湾として全国的に後発であるがゆえ、インセンティブ施策の充実に力を注ぎました。

この結果、少なからず釜石港の好感度は上昇していき、各企業による釜石港利用に向けた検討が開始され始め、これから個別具体の調整を行っていくとしていた矢先、東日本大震災に遭遇することとなった次第です。

■希望の電話

東北地方の3月は肌寒く、まだ冬の状況です。電気、水道、ガス、通信、全てのライフラインを失った中、私は飢えと寒さをしのぎつつ、避難所運営に従事していました。

2週間ほど経過した頃、せめて自分自身の安否を家族へ知らせようと、避難所スタッフ一同がローテーションを組んで、それぞれ一度は帰宅することとなりました。ライフラインを失うと同時に、携帯電話の電源を切っていたため、幸いにも電池残量にはまだ余裕がありました。

震災に伴い、帰宅ルートは隣町経由となりましたが、案の定、隣町の携帯電波は復活していました。携帯電話の電源ONと同時に無数の着信履歴を自動受信しました。家族からの安否確認と思われる着信履歴に交じり、井本商運からの複数回にわたる着信履歴を見つけました。コンテナ定期航路開設を必達目標としていた身にとって、コンテナ船社とのコミュニケーションに勝る喜びはなく、すかさず電話を入れ、井本商運とコンタクトをとることができました。話し込んでいくうちに、震災直後から張り詰めたままだった緊張感が次第にほぐれていくのを感じました。

■コンテナ荷役機械の復旧

震災から一カ月ほどして、私は避難所から復興プロジェクトチーム（以下、復興PT）への異動を命じられました。復興PTは応急仮設ながらも事務環境が整っており、連日、井本商運と連絡を取り合いました。

このような中、釜石港の公共ふ頭は、岩手県内4重要港湾の中で最速となる平成23年（2011年）4月11日に、応急復旧ながらも供用再開が果たされ、岩手県のホームページ上で内外にアナウンスされました。

急を要するのは、コンテナ荷役機械の復旧です。日鉄釜石の専用岸壁の復旧に相当の時間が見込まれる状況だったため、日鉄釜石の存続、早期操業再開という大きな至上命題は、自ずとジブクレーンの復旧を早めることに繋がりが、気が付けば、東北地方太平洋側に位置するコンテナ取扱港湾の中で、最も早い平成23年（2011年）5月3日には供用再開を果たすことができました。

問題はストラドルキャリアの復旧でした。八戸港に5基、仙台港に11基あったストラドルキャリアが全て倒壊してしまった状況下において、釜石港に唯一あったものは湾口防波堤によって守られ奇跡的に倒壊を免れました。しかしながら、エンジンを含む基幹部分が海水につかってしまい、維持管理業者の見解も、エンジン等のオーバーホールには相当の時間を要するほか、手配に手が回らないといった状況にありました。

釜石港のストラドルキャリアは三菱重工交通機器エンジニアリング製。一

か八か、必死の思いで岩手三菱ふそう自動車販売株式会社釜石営業所へ駆け込みました。すると、なんと当該ストラドルキャリアのエンジンは三菱ふそう製であることが判明し、その後オーバーホール等、トントン拍子で復旧が進むこととなり、平成23年（2011年）6月13日、供用再開を果たすことができました。

■悲願の達成

コンテナ荷役機械の復旧に挑む傍ら、井本商運との協議を続けていました。「震災前の状況から外貿コンテナ船社の営業力を無くして釜石港にコンテナ貨物を集荷するのには限界を感じており、釜石港にコンテナ輸出入基地（CY）を構えていただける外貿コンテナ船社を探したい。ついてはコンテナヤードレイアウト図面が欲しい。」私は、井本商運の問いかけに可能な限り即応しました。

平成23年（2011年）5月31日、釜石港視察のため、井本商運にアテンドされたOOCL日本支社が初来釜されました。「コンテナ船社が思う以上に、コンテナ航路は力を持つ。コンテナ航路の有無は、地方経済の行く末さえも左右する。震災前、出遅れていた岩手県に目を向ける船社はほとんど皆無だった。これからの岩手県を、そして釜石港を、是非、見つめて頂きたい。」走馬灯のように蘇るこれまでの必死の努力からか、こみ上げてくる感情をかりうじて抑えつつ切に訴えました。

それから約1カ月半後の平成23年（2011年）7月17日、震災後初寄港を祝う記念横断幕を高々とブリッジに掲げる、井本商運所属、まいこ（749GT 船）の姿が釜石港にありました。同時に釜石港は、OOCLの輸出入サービスも開設され、ここに、悲願の国際フィーダーコンテナ定期航路開設を迎えることとなりました。

北上ハイテクペーパー株式会社で生産される北米向け印画紙用原紙、40ftコンテナ4本を船積みし、関係者一同の期待を背に、国際Fコンテナ船は釜石港を後にしました。



震災後初寄港

■ガントリークレーンの導入

国際フィーダーコンテナ定期航路が開設されても課題は残ります。ジブクレーンでは、どうしても能力的に限界があるからです。コンテナ定期航路の誘致、維持存続に向けては、大型化するコンテナ船への対応、さらには荷役スピードの向上が重要となることから、ガントリークレーンを必須とする傾向があり、言い方を替えれば、ガントリークレーンが複数のコンテナ輸出入サービスとコンテナ貨物を呼び寄せ、県内の荷主企業も他県の港湾においてこの恩恵を受けてきたわけです。

かかる状況を踏まえ、岩手県は釜石港に、県下初となるガントリークレーンを整備、平成29年（2017年）9月3日に稼働を開始したところです。非常に高額なガントリークレーンですが、大阪府からの復興応援、無償譲渡によってついに夢が叶ったところです。ガントリークレーンの導入により、荷役

能力は大雑把に言って倍増しました (<https://www.city.kamaishi.iwate.jp/docs/2020030600078/>)。

復興道路，復興支援道路の整備とも相俟って，東北6県のパワーバランスによりやく均衡が訪れようとしており，岩手県の港湾政策が新たなステージに突入したことを象徴する歴史的な出来事でした。

■躍動する釜石港

釜石港にコンテナ定期航路が開設されてから11年が経過しました。

平成28年（2016年）1月からは，中国の海運大手，SITCが，苫小牧，八戸，仙台に続く東日本における4番目のサービスポートとして，釜石港での輸出入サービスを開始しました。

OOCL，SITC，両船社ともに国際フィーダーコンテナ定期航路を活用し，京浜港で積み替えを行うことで釜石港発着の輸出入サービスを提供頂いております。貿易の選択肢が増えれば増えるほど，荷主企業等へのメリットが大きいものと推察されます。

一方，前述のとおり，震災前，海に面する39都道府県のうち，唯一岩手県だけが本格的な国際コンテナ取扱港湾の整っていない地域だったため，岩手県内に立地する各企業の輸出入行為は，他県の港湾に頼らざるを得ず，敢えて言うならば岩手県産GDPをみすみす県外に流出させている状況にありました。

このため，どうしても他県の主要コンテナ取扱港湾の存在が気になるところですが，本格的なコンテナ取扱港湾が不在の岩手県を除き，東北5県の主要コンテナ取扱港湾の全てにガントリークレーンが立地しておりました。

時代の変遷と自治体間競争の結果によって形作られた既存概念とパラダイムが，一瞬の間でしたが，震災によって融解しました。この瞬間を最大最後のチャンスと捉え奔走し，釜石港のコンテナ物流情勢が，今，ようやく成長軌道に乗り始めました。

ガントリークレーン供用開始から2カ月後，韓国の有力船社，NAMSUNGが運行する，海外と釜石港を週一便，かつダイレクトに結ぶ外資コンテナ定期



ガントリークレーン

航路が開設され、平成29年（2017年）11月17日、記念式典が挙行されました。

岩手県には、中国製の商材を大量に扱う大手ホームセンターの物流センターが複数立地しているほか、紙・パルプ製造業、鉄鋼業、農林・水産業、さらには裾野が広い自動車産業など数多くの企業が立地しており、これら企業の輸出入を、今こそ釜石港利用に回帰させようと、さらに奔走しました。

外資コンテナ定期航路開設の翌年からは、船腹量で世界第2位の規模を誇る世界的海運会社、MSCの輸出入サービスも開始されております。

ついに岩手県にも、釜石港という国際貿易拠点港、流通港湾が誕生し、昨今、岩手県の重要な国際貿易ツールとして広く認識されつつあり、なおかつ、ボーダーレスにて、誰もがその恩恵を享受することが可能な状況となっております。

■農林水産業の海外展開支援

昨今、水産物の三陸における水揚げ不振が叫ばれておりますが、それでも世界三大漁場の1つ、三陸漁場に面している岩手県は、四季折々、旬な魚介

類が豊富に水揚げされます。水揚げされた魚介類の一部は、海外の缶詰工場や食品メーカーへ輸出されておりますが、こうした営みを釜石港が盤石に支えることによって地元水産業の復興を支えております。

釜石港における冷凍冷蔵コンテナ（リーファーコンテナ）の取扱いは、平成24年（2012年）7月より開始され、劇的な成長を遂げております。集荷範囲も青森県、宮城県へと拡大しており、気がつけば、釜石港の冷凍鮮魚輸出量は、釜石市魚市場の水揚量を上回る状況となりました。今後、さらなる拡大が期待されるところです。

鮮魚の出荷が増える中で、1ロット40本、分割不可といったオーダーが入ることもあり、リーファーコンテナ電源口数の問題から、みすみす他県の港湾に譲らざるを得ない状況に陥ることも多々ありました。このような状況を打開すべく、岩手県は、横浜港埠頭株式会社からの支援を受けて、令和2年（2020年）3月、リーファーコンテナ電源口数を東北第3位の規模となる58口に増強しました。

国際貿易拠点港として急速に成長を続ける釜石港は、牧畜産業のメッカである岩手県にあり、当然の如く動物検疫貨物の輸出入に係るオファーも数多く受けているところですが、これまで岩手県には本格的な国際貿易上の動物



リーファーコンセント58口

検疫港はなく、動検対象貨物を取り扱うことができませんでした。

このため、一刻も早い動物検疫港の指定が望まれましたが、令和元年（2019年）8月、県下初の動物検疫港として農林水産省

から釜石港が指定されました。令和元年（2019年）暮れより、動物検疫対象のコンテナ貨物を無事に取扱い、以降、特段のトラブルも無くスムーズな輸出入が行われている状況にあります。

海外マーケットを視野に置いた農林水産業振興に向けて、釜石港がその役割を担っていければと考えています。

■ポート・オブ・ザ・イヤー2019受賞

令和元年（2019年）、釜石港のコンテナ取扱量は、自らが持つ県内過去最多記録を上回る9,292TEUを記録しました。また、利用企業数も当初の8社から、令和元年（2019年）は84社を数えるまでに成長を続けております。

このような中、令和2年（2020年）1月、公益社団法人日本港湾協会発行の情報誌「港湾」において、全国約1,000港の中から令和元年（2019年）度最も優れた港湾として、釜石港がポート・オブ・ザ・イヤー2019に選定され、全国一の栄誉に輝きました。

釜石港のコンテナ物流情勢は飛躍的な成長を続け、RWC2019TM日本大会の国内12会場の1つである釜石鵜住居復興スタジアムの建設資材輸送も担うなど、復興の牽引役として地域経済に大きく貢献したほか、釜石港界隈に建設した、魚河岸テラスが、鉄と魚とラグビーのまち釜石を発信する基盤施設として、被災沿岸部に賑わいを創出するなど、釜石港が様々な面で地域の未来に夢と希望を与え続けている点が高く評価されたと伺っています。



ポート・オブ・ザ・イヤー2019受賞（表彰式）

令和2年（2020年）1月22日、都内ホテルにおいて表彰式が開催され、国会議員、全国の港湾関係者ら約1,000人に見守られる中、表彰状と盾を授与されました。

■ T字路から十字路へ

令和2年（2020年）度をもって東日本大震災の復興・創生期間が終了し、一通りの復旧・復興事業は完了しました。

震災前を遥かに凌ぐスケールで社会インフラの復旧整備が進められてきた中で、震災前から続く国・岩手県の積年の負託に応え、果たしていくべき釜石市の社会的役割とは、半世紀前に郷土の先人達が思い描いた広域経済圏の流通港湾、岩手県における海運の要衝として釜石港を成長させ、もって地域経済発展の礎としていくことに考えております。

縦軸の三陸沿岸道路、横軸の東北横断自動車道釜石秋田線の整備完了で、陸域におけるアクセス性向上が図られましたが、これに釜石港の流通港湾化、



開通後の釜石JCT

海の向こうへ繋がる突破口が加わることで、釜石市は三陸のT字路から十字路へと変貌し、物流上の地政学的優位性をもたらします。

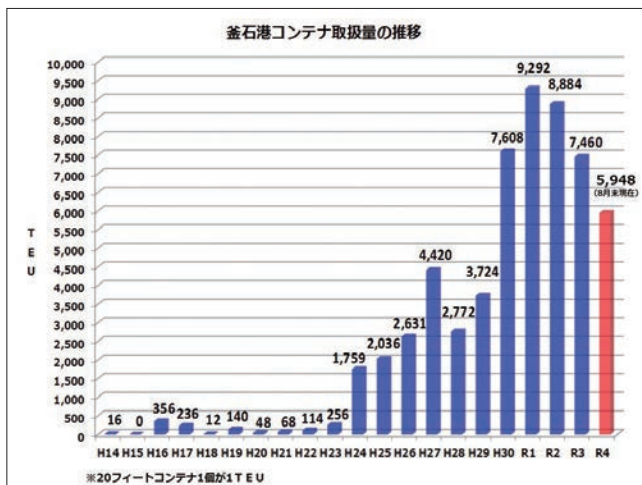
今後、釜石港の近隣、即ち釜石市内に物流拠点施設や加工貿易工場などを構えることで、ビジネス展開上、大きな優位性を発揮していくものと考えられ、震災以降、既に釜石市に進出している製造業や物流業などに加え、企業誘致活動上、大きな呼び水になっていくものと期待しているところです。

復旧・復興の先の発展期は、釜石港の趨勢と歩調を合わせながら、まちづくりを進めていければと考えております。

■おわりに

令和2年（2020年）初頭から、世界を揺るがしてきたコロナ禍は、2年半が経過した現在も未だに終息の見通しがたっておらず、人々の健康や生活、社会経済活動など、広範にわたって大きな影響をおよぼしています。

コンテナ物流においては、港湾労働者のコロナ感染に端を発する世界的な港湾混雑、スエズ運河の封鎖事故などによって、コンテナ船の運航スケジュール遅延が頻発、船の回転不足で船腹・スペースの供給量が減少したほか、コロナ禍以前から続くドライバー不足問題がより深刻化し、コンテナ陸上輸送に遅れを生じさせ、空コンテナが不足する事態を招きました。また、巣ごもり需要などで拡大する荷動き需要に対し、輸送能力の供給が追いつかず、結果、海上運賃の高騰





釜石港全景

が定着化するという、悪循環に陥っております。

このため、サプライチェーンの混乱に業を煮やした、アマゾンやコストコ、ウォルマートといった、世界的な大手小売業は、自らコンテナ船やバルク船のチャーター運航に踏み切るなど、既存の定期コンテナ船社への挑戦とも捉えられる、解決策を打ち出しています。

地球上にコンテナ物流が誕生してから66年が経過し、グローバル経済は、Eコマースの発展とコンテナリゼーションによって支えられるという世界秩序が生まれておりますが、コロナ禍をはじめとする、世界的混乱の中にありながらも、釜石港においては、物流基盤を活かした地域経済の活性化に向けて、コンテナ定期航路を維持・存続させていかなければなりません。

コロナ禍に加え、ロシア・ウクライナ紛争が長期化の様相を見せるなど、先行き不透明な情勢下にあります。引き続き、一歩ずつ、前に進んでまいりたいと考えております。

魚粉の進化を考える

(株)コーンヒルトレーディング 代表取締役

井 口 忍



前回、魚粉は生産量が増えない上に近い将来において魚粉代替品が出現するのは難しいというお話をしました。

今回はそれを踏まえて、生産量が増えないなら少ない量でも同じ効果が期待出来る魚粉の生産について考えてみたいと思います。量が増えないのなら質で勝負するしかありません。そして、これまでは魚粉代替品の開発という形で魚粉業界は外部から圧力を掛けられ、代替品が出現した場合の存在が危うくなるのではないかと心配してきました。しかし近い将来においては魚粉代替品の出現が難しいのであれば、その間に今の魚粉をもっと機能強化し、一段でも二段でも高みに上らせ、魚粉代替品候補との水を更に開ける努力が必要だと考えます。

また、低魚粉や無魚粉を売りにした水産飼料も研究され、既に製品化されたものが一定の評価を得ているのも事実です。しかしながら、一方で「天然魚の味や風味と同じものをつくること」を目標にかかげそれに少しでも近づこうとしたのが“養殖魚”の歴史と言っても過言ではありません。ご存知の通り、味や風味は餌によって決まります。天然魚が食べているものを飼料として与えるというのが基本だと思います。

魚粉の価格が高いのは需要が供給を上回っているからということとは誰もが理解していることです。しかし、魚粉に限らず多くの原料は相場商品であり価格は需給バランスによって決まります。ロシアのウクライナ侵攻により魚粉や魚油の代替品の多くも需給バランスが崩れて価格が高騰しました。魚粉の最大のライバルでもある大豆粕も高騰し、魚油の代替品の一つであるパー

ムオイルに至っては一時国産魚油以上の価格になってしまいました。魚粉が高いということで低魚粉や無魚粉を目指すのは再考の余地がありそうです。

そこで 本稿ではもともと魚粉が備えている機能の“強化”という観点にて魚粉をいかに進化させるかを考察します。

魚粉の特長をここでもう一度おさらいしておきましょう。

- 高蛋白
- 魚の成長に有用な3つのアミノ酸含有量が多い
- 魚油（EPA+DHA）を含んでいる
- 嗜好性物質を含んでいる

以上の4点です。これを強化するにはどうすれば良いでしょうか？

■高蛋白という特長の強化

漁獲した魚をそのまま魚粉にする場合は通常CP（Crude Protein）65%以上の高蛋白な魚粉を得ることができます。しかし同じマイワシを原料にして、同じ工場で魚粉生産を行ってもCPの値は変動します。その変動の要因は何でしょうか？

【腐敗によるCPの低下】

蛋白質や蛋白質の構成要素であるアミノ酸は腐敗によって時間とともに他の物質に変化して行きます。この腐敗は原料魚の置かれた環境によって進み具合は異なりますが、原料魚の腐敗は魚粉工場のクッカーに投入されて加熱されるまで続きます。アミノ酸は腐敗によりアンモニアやアミンが生じることが分かっていますので、原料魚のアンモニアやトリメチルアミン等の含有量を調べれば、原料魚の腐敗の程度が分かります。

VBN（Volatile Basic Nitrogen：揮発性塩基性窒素）という分析指標は製品としての魚粉の分析項目となっていますが、原料魚の段階でVBNを調べることによりアミノ酸からアンモニアやアミン等がどの程度生成されているかが分かります。原料魚のVBNが低ければその原料魚から製造されたVBNも

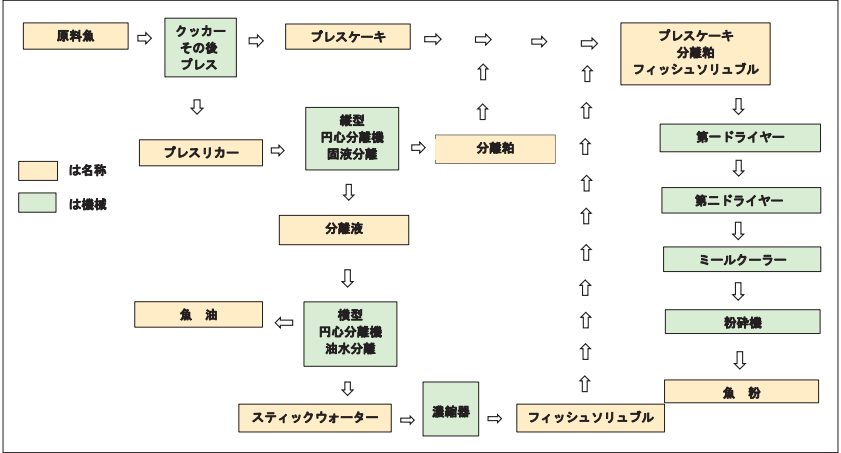
低いことは分かっています。原料魚においてアンモニアやアミン等が生成されていればその分CPは減ることになり、クッカーに入る手前の原料魚のVBNが低ければ低いほどCPの高い魚粉が製造できます。つまりVBNという視点からの鮮度の良い原料魚からはよりCPの高い魚粉が製造されることになります。

【水溶性蛋白質の回収】

魚粉の製造工程（図1）を参照願います。

原料魚はクッカーで加熱され蛋白質の凝固後にプレスによって固形分と液体に分離されます。その液体部分から油脂分（魚油）を取り除いた液体がスティックウォーターと呼ばれる、水溶性蛋白質やビタミン、ミネラル等が豊富に含まれた液体です。スティックウォーターを濃縮したものがフィッシュソリュブルと呼ばれ、これをプレスで分離した固形分に添加して乾燥し、その後粉碎したものが魚粉です。このフィッシュソリュブルには水溶性蛋白質が含まれていますので、フィッシュソリュブルの何%を魚粉に添加出来るかによって魚粉のCPが変わってきます。水溶性蛋白質を含んだフィッシュソ

図1 魚粉製造工程



リュブルの添加量が多いほどCPの高い魚粉になりますし、魚粉の歩留まりも向上します。

魚が死ぬと生体内の酵素が制御できなくなり、まず筋肉中の蛋白質分解酵素であるプロテアーゼにより蛋白質がアミノ酸に分解される自己消化が起きて組織が軟化します。アミノ酸の多くは水溶性であり、生体内の水分に溶け込み魚粉製造の過程でスティックウォーターに移行します。更に内臓にある様々な酵素によって組織は分解されて腹切れや身崩れが起きます。クッカーで加熱して酵素の活性を止めない限り蛋白質は徐々にアミノ酸に分解されて水分に溶け込みスティックウォーターに移行します。フィッシュソリュブルをプレスケーキに添加すればスティックウォーターに溶け込んだアミノ酸を魚粉に戻しCPを高めることや魚粉の歩留まりの向上が期待出来ます。

【水分と油分のコントロール】

CPは百分率(%)で表しますので、他の要素(水分や油分)の割合によって左右されます。例えば魚粉中の水分が高ければCPは相対的に低くなり、水分が低ければCPは高くなります。油分についても同じです。

水分についてはある一定以上だとカビの発生や固結の原因となりますので通常の規格では水分は10%以下となっています。水分は乾燥機の温度を上げれば低く出来ますので、その分CPは上がります。しかし乾燥機の温度を上げて水分を極端に低い状態(例えば6%以下)にしまうと、蛋白質の熱変性により魚粉の消化率が落ちるという別の問題が起きてしまいます。また、ヒスチジンがヒスタミンにある一定以上変化している場合に過度の加熱(130℃で3時間)を行うと猛毒のジゼロシンが生成されることが分かっています。したがって一般的には水分は8%前後が適切です。

油分についても通常規格では10%以下となっています。油分も10%を超えると水分と同様に固結の原因になります。魚油の場合は魚粉中の油分は水分と異なり、乾燥機の温度を上げても低くなりません。魚粉中の油分はプレスの能力と分離液を油分とスティックウォーターに分離する遠心分離機の能力

に依存します。

魚粉中の油分は、プレスケーキ由来のものと、ソリュブル由来の2つがあります。油分はプレスで絞り出せるだけ絞り出せば魚油歩留まりも向上し、魚粉のCPも上がります。また遠心分離機でスティックウォーター中の油分をできるだけ多く魚油側に寄せることができればスティックウォーターを濃縮したソリュブル中の油分も少なくなりますので、油分の少ないソリュブル添加した魚粉は、油分が低く、CPが高くなります。しかし、プレスにも遠心分離機にも限度がありますので、頑張っても魚油中に8%程度の油分は残ります。

＜この項目のまとめ＞

高蛋白という特長の強化のためには、原料魚の鮮度保持とフィッシュソリュブルの100%添加、油分調整のためのプレスと遠心分離器の能力そのもの、また遠心分離器の能力を発揮させるためのメンテが有効であるということになります。一方で、水分調節においては現状からの改善余地はありません。

■魚の成長に有用な3つのアミノ酸の含有量の強化

【腐敗によるリジン（Lys）、メチオニン（Met）、ヒスチジン（His）の低下】

魚の成長に有用な3つのアミノ酸：Lys, Met, Hisも腐敗によって他の物質に徐々に変化します。Lysはカダベリンを経てピペリジンという皮膚刺激物質に変化します。Metは含硫アミノ酸ですので腐敗すると硫黄臭がします。Hisはヒスタミンというアレルギー物質に変化します。つまり腐敗はこれらの3つのアミノ酸も他の物質に変化させ、これら3つの含有量を減らしてしまいます。

【Lys, Met, Hisのフィッシュソリュブルからの回収】

Lys, Met, Hisの3つのアミノ酸は親水性があり、遊離アミノ酸となってスティックウォーターに溶け込んで行きます。しかしその溶け込み方にはそ

第1表 サバ普通肉の腐敗に伴うアミノ酸量の経時的変化

アミノ酸 時間		Arg	His		Lys	Tyr	Cys	Met	Ser	Thr	Leu	Val	Asp	Ala
遊離ア * ミノ酸	0	0.95	38 ^a	39 ^b	0.53	1.5	0.75	0.56	1.1	1.5	1.1	0.44	0.23	2.0
	20	2.7	32	37	2.6	15	1.2	7.6	4.5	13	22	8.5	8.7	30
	44	0.90	32	35	7.3	5.8	0.20	10	1.3	4.6	27	4.7	2.7	9.6
	92	4.1	35	38	4.4	3.4	4.1	2.3	5.5	7.3	6.3	11	6.8	10
	188	2.9	36	40	23	2.9	5.2	2.3	4.0	7.6	6.0	7.2	1.9	16
全ア ** ミノ酸	0	1.1	2.1	2.2	2.1	0.08	0.38	0.87	1.1	1.0	1.5	2.1	2.1	1.3
	188	0.57	1.6	1.6	1.6	0.51	0.30	0.54	0.68	0.70	0.78	1.1	1.6	1.70
	残存率%	54	76	73	76	64	77	62	62	70	52	52	76	130

注： * 鮮肉中の全アミノ酸量を100として、遊離アミノ酸量を%で示した。

** 試料の塩酸加水分解物中のアミノ酸量を鮮肉中の%で示した。

a は *Leu. mesenteroides* を、b は *Leu. citrovolum* をそれぞれ定量菌株として用いた。

(出所) 日本食品工業学会誌第10巻第1号、1963年1月

れぞれ特徴があります。1963年の星野直司氏の「サバ普通肉の腐敗に伴うアミノ酸の消長について」は、サバ普通肉のミンチに同量の蒸留水を添加して良く攪拌したものを室温で放置した場合の実験結果を提供してくれています。(表1参照) サバもイワシ同様に魚粉原料魚として利用されますのでこの論文を採用します。

それによると、LysとMetの遊離アミノ酸の割合は20時間後で大幅に増え44時間後にピークを迎え以降低下していきます。ところがHisについては最初から遊離アミノ酸の割合が高く時間経過しても大きな変化はありません。もう少し詳しく見ていくと、0時間目ではHisは40%弱、LysとMetは1%未満が遊離脂肪酸です。これが20時間後にはHisは34%前後、Lysは2.6%、Metは7.6%が遊離脂肪酸となっています。44時間（1日+20時間）後にはHisは33%前後、Lysは7.3%、Metは10%になっています。Hisは最初から遊離アミノ酸が多く、LysとMetは時間経過と共に原料魚の蛋白質が遊離アミノ酸としてスティックウォーターに溶け込んでいくということになります。

魚粉工場は漁船が漁獲したものを買って連続操業を行いますので1日分の原料しか買わなかった場合でも最後にクッカーに入る原料魚は、原料ピットで24時間待機したことになります。20時間後の遊離脂肪酸の測定は1日分の

原料魚を買って魚粉工場に搬入した時の後半の原料魚の状態に相当します。また週末や悪天候で休漁が事前に分かる場合は2日分やそれ以上の原料を仕入れることもあり、その場合は原料魚の待機時間は更に長くなります。44時間後というのは搬入2日目の後半の原料魚の状態に相当します。漁船における原料魚の鮮度保持がしっかりしていれば時間計測の起点が原料ピットに入った時で良いと考えますが、漁船における鮮度保持が不十分な場合は時間計測の起点は漁船が原料魚を漁獲した時となりますので、遊離アミノ酸の割合は更に増加します。

Hisは最初から遊離アミノ酸が多く、LysとMetは原料魚がクッカーに入るまでの時間が長ければ長いほど遊離アミノ酸が増えていきますので、フィッシュソリュブルの添加が魚粉中のこの3つの有用なアミノ酸の含有量を左右することになります。従って、遊離アミノ酸が溶け込んだフィッシュソリュブルの添加が3つの有用なアミノ酸の保持には重要ということが導けます。

<この項目のまとめ>

前項でも触れた原料魚の鮮度保持とフィッシュソリュブルの100%添加が有効であるということになります。

■魚粉中のEPA, DHAの強化

高蛋白という特長の強化の項目で既に触れましたが、魚粉中の油分は10%を超えると保管中の固結のリスクが高まり、また魚粉に粘性が出て配合飼料工場においての粉碎や他の原料との混合をする時に『だま』になる問題が起きます。そのため、EPA, DHAを増やすことを目的に魚粉中の油分を増やすことは行いません。EPA, DHAの強化のためには水産飼料を製造する過程で別途魚油を添加する方法が採られています。魚粉中の油分についてこの項目で述べるのは、EPA, DHAの強化というよりも、酸化を抑えることによる機能低下の防止ということになります。

油脂は酸化によって味や風味が損なわれることや、油脂が酸化した食品が下痢の原因になり得ることを私たちは経験的に知っています。魚油はEPAやDHAなどの不飽和脂肪酸が多いことから油脂の中でも特に酸化されやすい性質を持っています。EPAやDHAは酸化されることでアルデヒドやケトンが生じるため、酸化を抑えることがEPAやDHAを減らさないことにつながります。

【原料魚に含まれる油脂の酸化を抑える】

原料魚は、原料ピットにおいて常温でクッカーに入るまで一定時間待機しますのでその間に油脂に酸素が取り込まれて酸化／酸敗が進みます。鮮度を保ち迅速にクッカーに送り込むことで酸化／酸敗の程度を低く抑えることができます。

【低温処理で酸化を抑える】

魚粉製造には油の酸化を進めてしまう加熱という工程が2つあります。1つはクッカーであり、もう一つはドライヤーです。クッカーの役目は加熱による魚の蛋白質の凝固です。100℃程度で20-30分程度煮ると蛋白質が凝固します。クッカーによる100℃20-30分程度の加熱では油脂分の酸化は進みません。クッカーの後でプレス、遠心分離機経由で得られる魚油の原油の酸価(*)は1以下です。クッカーでは酸化は進んでいないことが分かります。

(*) 酸価について

酸価(AV: Acid Value)は油脂1g中に含まれている遊離脂肪酸を中和するのに要する水酸化カリウムのmg数と定義されています。脂肪酸により分子量が違いますので(オレイン酸:282.5 リノール酸:280.4 リノレン酸:278.4など)、脂肪酸組成によって酸価とFFAの関係は異なります。例えばオレイン酸では $FFA(\%) = \text{酸価}(\text{mg}) \times 0.503$ という関係になります。

また平均分子量が278.78の大豆油の場合は $FFA(\%) = \text{酸価}(\text{mg}) \times 0.500$ という関係になることから、簡易的に $FFA(\%) = \text{酸価}(\text{mg}) \times 0.500$ つまり酸価の半分の数字がFFAとされています。

しかしドライヤーで魚粉を乾燥する場合の加熱では魚粉中の油脂分の酸化が進みます。ドライヤーの種類によって魚粉への熱のかかり方は違い、最近では異なった種類のドライヤーを2つ直列にして乾燥する方式が取られています。最も低温で乾燥するタイプのドライヤーの組み合わせは、最高温度100℃と最高温度60℃のタイプです。このタイプでも出来上がる魚粉の酸価は9～12程度まで上がってしまいます。魚油の原油の酸価1に比べればかなり高いのですが、Super Primeという最上級の魚粉の酸価の規格は15（実際の規格は酸価ではなくFFA：Free Fatty Acid7.5）ですので、この酸価9～12というのは抜群と言えます。

【抗酸化剤で酸化を抑える】

8%前後の油分を含んだものを通気性の良い袋やバラという荷姿で、常温で保管すると酸化は進んで行き、酸価20という規格をオーバーしてしまうこともあります。それを防ぐために抗酸化剤を魚粉製造ラインで添加します。

＜この項目のまとめ＞

魚粉中のEPA、DHAの強化、あるいは減少を防ぐためには、原料魚の鮮度保持、低温乾燥、抗酸化剤添加が有効ということになります。

■魚粉中の嗜好性物質の強化

魚粉の製造において工場によって大きく違う部分がフィッシュソリュブルの添加割合です。スティックウォーターを濃縮してフィッシュソリュブルにしますが、この出来上がったフィッシュソリュブルの何%を魚粉に添加するかは工場の建設段階の各機械の能力で決まることから、一度建設してしまうと設備更新の時に能力UPするまで変えることは出来ません。また、このフィッシュソリュブルの添加率が高ければ高いほど嗜好性は大きくなります。

【フィッシュソリュブルの添加率UP】

黎明期の魚粉製造では製品は魚油と魚粕のみであり、フィッシュソリュブ

ルは廃棄されていました。原料魚を煮て、それを絞って、固形物は天日干しにして肥料として利用されました。液体部分は静置すると比重の軽い油分と比重の重い水分は時間と共に分離します。上澄み部分（魚油）を灯り用として利用していました。余談ですが、怪談話の化け猫が灯りを舐めるのは魚油だからだと言われています。当時、利用価値が無かったフィッシュソリュブルは廃棄されていました。

時代が進むとフィッシュソリュブルは糠などに吸着させて魚粉代替物として利用されるようになります。魚粉より安価であることから主に肥料用途で使われていましたが、需要はそれほど大きく無かったため、多くは廃棄されていました。しかし水質汚染などの公害が社会問題になるとフィッシュソリュブルの廃棄も許されなくなります。これは日本だけでなく世界中の魚粉メーカーが直面した問題です。血水やフィッシュソリュブルの処理や臭いの問題に魚粉メーカーは苦しみます。

その解決方法がフィッシュソリュブルの魚粉への添加でした。魚粉に添加するにはプレスリカーを1日静置して油水分離を待っていては間に合わないで遠心分離機が導入されました。ただし、スティックウォーターを直接魚粉に添加するとドライヤーの負担が大きくなるので濃縮機が導入されます。しかし遠心分離機も濃縮機も高価で扱いが難しい機械です。遠心分離機で油分と水分を上手く分離するのは難しく、油分に水分（スティックウォーター）が入り込んだり、水分（スティックウォーター）に油分が入り込んだりして上手く行きません。また、濃縮機は、フィッシュソリュブルを濃縮しすぎるとドロっとした粘性が出てしまい、魚粉に戻した時に上手く混ざらずにフィッシュソリュブルの乾燥した黒い粒子が魚粉の中に点在する状態になります。濃縮が足りない場合は乾燥機に負荷をかけて高温で乾燥しジゼロシンのリスクが高まるか、乾燥が足りない場合は水分の多い生乾き魚粉が出来上がります。

フィッシュソリュブルの添加率UPには、高性能で大きなキャパの遠心分

離機と高性能で大きなキャパの濃縮機と高性能で大きなキャパの乾燥機が必要になります。図1を改めてみて頂きたいのですが、右側にドライヤーが2つ直列で設置されています。この主たる目的はフィッシュソリュブルの添加率をUPさせるためです。乾燥機を2本直列に並べることによってフィッシュソリュブルを100%魚粉に添加しても、低温で時間をかけて魚粉にダメージを与えることなく適度な水分量に落とすことが出来ています。

■まとめ

魚粉が持っている4つの特長

- 高蛋白である
- 魚の成長に有用な3つのアミノ酸含有量が多い
- 魚油（EPA+DHA）を含んでいる
- 嗜好性物質を含んでいる

をより強化するには、

- 原料魚の鮮度保持
- フィッシュソリュブルの100%添加
- 低温乾燥，抗酸化剤の添加
- 高性能でキャパの大きい3つの機械（遠心分離機，濃縮機，乾燥機）

が必要です。

米国の物価事情

兼松株食糧素材部食品大豆課

向 井 滉



JFTA会員の皆様、平素より大変お世話になっております。兼松株式会社食糧素材部の向井と申します。私は2022年の2月より約半年間アメリカのシカゴに研修生として赴任しておりました。そこで感じた米国の物価事情に関してこの場をお借りしてご紹介したいと思います。

2020年2月、コロナショックにて大幅に経済が停滞し、物価は一時的に下落しましたが、各国政府の金融緩和政策により、様々なものの値段が上がったことは記憶に新しいことと思います。飼料業界におられます皆様や、大豆を輸入しております私におきましても、相場が記録的な上昇を見せ、物価が上がりにくい日本にとっては苦しい状況が続いております。

アメリカでの日常生活におきましても物価の上昇は生活に大きな影響を与えております。わたくしは独身のため、日本にいるときは基本的に毎日外食をしております。東京で昼食を取ろうとしたら、平均1,000円ほど出せば満足な食事がとれます。地方出身の私にとってはそれでも高いと感じますが。一方、アメリカで昼食をとるとするならば、大手ハンバーガーチェーンにおいても\$10は最低でもかかります。夕食にラーメンを食べたいと思うならば、ラーメン1杯13ドル。ビールで5ドルそれに消費税と20%のチップを入れると約\$24。今の為替(¥140/\$)で3,000円強のお金が私の財布から無くなってしまいます。コロナ禍以前の為替¥110/\$で計算したとしても2,500円以上です。アメリカの強烈な物価上昇がご理解いただけたと思います。

デートでステーキハウスに行くと、ビール1杯\$12、ステーキ1枚\$60～



ラーメンのメニュー表

SOUP & SALAD		
CARAMELIZED ONION SOUP CREAMY BROTH, GRUYERE, MOZZARELLA CHEESE 14 MIXED GREEN SALAD CUCUMBER, TOMATO, SWEET ONION, CHAMPAGNE DILL VINAIGRETTE 13 ADD CHICKEN 12 , STEAK 22	SPINACH SALAD BLACKBERRIES, CHEVRE GOAT CHEESE, GINGER, HONEY VINAIGRETTE, MAROCANA ALMONDS 14 CAESAR SALAD OLIVE OIL CROUTONS, PARMESAN CHEESE 14 ADD CHICKEN 12 , STEAK 22	MJ'S CHOPPED SALAD BACON, BLUE CHEESE, TOMATO, PICKLED ONIONS, CUCUMBER, HOUSE VINAIGRETTE 10
ENTREES		
STEAK FRITES FRENCH FRIES, HERB BUTTER, BORDELAISE 45 SLAGEL FARMS ROASTED CHICKEN BUTTERFLICK BRINED WITH STONE GROUND GRITS AND BROWN BUTTER JUS 33	FAROE ISLAND SALMON FIVE SPICE RUB, SWEET SOY, STIR FRIED VEGETABLES 39 PORK CHOP GIARDINIERA CHICAGO STYLE GIARDINIERA, CHARRED CIPPOLINI ONIONS, CRISPY POTATOES, MUSTARD JUS 42	PAN ROASTED HALIBUT ROMESCO, WAX BEANS AND SNAP PEAS 44 WAGYU BIG MIKE BURGER WAGYU BEEF - SESAME BUN, AGED CHEDDAR, CHARRED SWEET ONION, DILL PICKLE, SHREDDED ICEBERG, AND SPECIAL SAUCE 33
STEAKS		
MJ'S PRIME DELMONICO 16OZ. DRY AGED 45 DAYS, GINGER-SALSAIMIC JUS 71 FILET MIGNON 10OZ. BAY LEAF BUTTER 63	KC STRIP 20OZ LINZ HERITAGE ANGUS, 30 DAYS DRY AGE, ROASTED MUSHROOM BUTTER 69 NY STRIP 14OZ USDA PRIME, PICKLED RED ONION 63	23OZ. BONE-IN RIBEYE LINZ HERITAGE ANGUS BEEF, PICKLED GARLIC 73 FILET OSCAR 6OZ FILET, BLUE CRAB, GRILLED ASPARAGUS, SPICED HOLLANDAISE 68

70, サラダ 1 皿 \$ 20。もちろん彼女にお金を払わせることはしません。すると 1 回の食事で日本円にして 3 万円以上かかってしまうことになります。

たまには日本食を食べたいなと思い大戸屋にも行きました。アメリカの食生活に飽き、どうしても焼き魚の滋味を感じたくほっけ定食を注文しました。日本より少し高いだろうから \$ 15 くらいかなと思っておりましたが、\$ 27 です…やはり魚には日本酒かなと思い八海山を注文 (\$ 15)。消費税、チップを



Ootoya Americaメニューより抜粋

720, バター \$8= ¥1,080と、飼料はほぼ全て自国で賄っていて飼料コストは圧倒的に日本より安いはずなのに最終製品は日本よりはるかに高いのです。

入れて合計約 \$60 (≒ ¥8,500)。高すぎます。高級和食店に来てしまったのかと思いました。

外食は高いので研修の後半は自炊をすることにしました。ウォルマートに行きますと様々な食材が毎日安価で手に入ります。安価と言いましても日本のスーパーで手に入るような価格ではありません。卵 1 パック (12個入) \$5.5= ¥800。牛乳 3.78リットル \$5= ¥



牛乳3.78Lで \$4.99 (≒ ¥720)



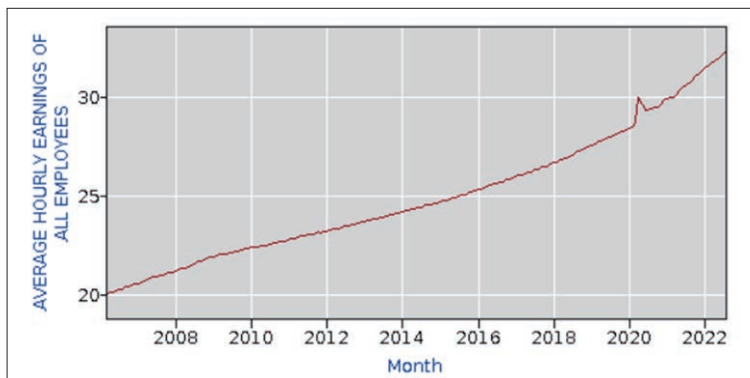
卵12個で \$5.49 (≒ ¥800)

アメリカの労働市場に目を向けてみますと、平均賃金は毎月徐々に上昇しており、例えばシカゴのウォルマートのレジ打ちの時給は\$40です。年収にして75,000ドル（≒1,050万円）と日本だと上位3%の高給取りになります。以下は米国の平均時給を現したグラフです。毎年安定して



バター 453g で\$7.49（≒¥1,080）

賃金が増えている様子が見て取れます。一方で賃金は上昇しておりますが、インフレに追いついておらず、庶民は皆苦しい思いをしております。



アメリカの平均時給（出典：U.S. BUREAU OF LABOR STATISTICS）

日本も2%のインフレを実現しておりますが、その要因が為替と輸入元国のインフレによる物価上昇で、アメリカとは原因が異なります。今の日本にとっては輸入相手国のインフレと、数十年來の円安のダブルパンチとなっており、かなり苦しい状況となっております。

現在米国ではインフレ抑制のための利上げを行っておりますが、まだまだ一般生活に目に見えて反映されるまで時間がかかるように思います。早く日本も良いインフレに転換し、所得が増え、海外旅行に行った際にも財布のひもを緩められるような社会になってほしいと切に願っております。

「美味ピータン」のご紹介

丸紅エッグ株式会社 加工事業部



●はじめに

丸紅エッグ株式会社は、1994年の設立以来、丸紅グループにおける卵の販売会社として、日本の飼料畜産業界や食品業界の発展とともに成長してきました。鶏卵の販売はもとより温泉たまご・煮卵・液卵といった鶏卵加工品に至るまで、鶏卵に関わる商品であれば、何でも取り扱っております。

さて、今回、ご紹介させていただく当社自慢の逸品「美味ピータン（おいぴーたん）」は当社加工事業部が手掛けた記念すべき第一号の鶏卵加工品であります。国産鶏卵を使用し、国内の自社工場で製造した日本初純国産のピータンでございます。

●「美味ピータン」の開発

新しい食材を世に送り出そう。

そう考えて開発に取り組み、試行錯誤を繰り返すこと約2年。ついに生まれたのが「美味ピータン」です。食感も味わいも新しく、クセがないのにクセになる。大人も子どもも美味しく食べられ、色々な料理に使えます。

●「美味ピータン」のこだわり

1. アヒルではなくニワトリの卵

一般的な中国・台湾産ピータンはアヒルの卵なのに対して、美味ピータンはニワトリの卵。ニワトリの卵は白身が多く、白身はピータンにすると

プルンと弾力のある質感になります。このプルプル食感が、美味ピータンのおいしさの秘密です。

2. プルプル食感，ニオイ少ない

ほかにはない「プルプル食感」に加え，美味ピータンは黄身の臭みが少ないため，従来のピータンが苦手な方にも食べやすくなっています。またプルプルの白身に対し，黄身はしっとり滑らかな舌触りです。

3. 安心・安全な日本産

日本で生まれた鶏卵を日本の工場で製品化。安全性と品質にとことんこだわった国産商品です。鶏卵は産地・日齢を限定し，厳選されたものを使用しております。また製造工程で鉛を一切使用しないので，商品に鉛が含まれることはありません。

4. 心をこめて，手間ひまかけて

美味ピータンは約2年かけて開発しました。製造にも細心の注意を払い，毎日，美味ピータンを手作業で作っています。2カ月をかけてじっくり熟成させ，検品も1個1個手作業で行っています。

5. 和洋中どんな料理にも

ニオイが少なくクセがないため和洋中どんな料理にも使え，おうちご飯



のレパートリーが広がります。新しい食べ方を考えるのも楽しそう。賞味期限が長いから買い置きもでき、一品足したいときのお助け食材にもなります。

●ピータンのアレンジ料理例

ピータンを使用したアレンジ料理については、当社HPにて公開されておりますのでぜひご参照ください。



●販売商品（全国の量販店・ECサイトにて販売中）



「美味ピータン 2 個入」



「美味ピータン 1 個包装
※塩・ごま油セット」

●最後に

今回紹介させていただいた「美味ピータン」は、当社が生み出した日本初の国産ピータンです。今後も当社では新たな鶏卵加工品の開発に向けて果敢に挑戦してまいります。現在、新たな加工品第二号の試作中です。更に面白い商品になりそうです。発売の目途がたちましたら、またご紹介させていただければと思います。乞うご期待ください。

【お問い合わせ先】

丸紅エッグ株式会社 加工事業部

TEL 03-6848-7310（平日 9：00～17：00 ※土日祝を除きます）

弊社ホームページ <https://www.marubeniegg.jp/>

ニューヨークの食生活

伊藤忠商事(株) ITOCHU International Inc. 出向

小國 聖仁



ニューヨークの ITOCHU International Inc. に出向しております小國と申します。2015年4月に飼料課（当時、飼料原料課）に配属されて約7年間東京本社で勤務しておりましたが、2022年3月末よりニューヨークに赴任してまいりました。こちらに来て半年が経ち、ようやくこちらの生活にも慣れてきました。今回はニューヨークの食生活について紹介したいと思います。

まずニューヨークのコロナ事情ですが、2022年8月末時点の感染者は約4千人／日（1週間の平均）と、5万人／日を記録した2021年12月末と比較しだいぶ落ち着いてきております。街中でもマスクをしている人は少なく、2022年9月よりタクシーのマスク着用もなしになりました。私が赴任した直後は、まだ閉鎖している店があったり入店する際もワクチン接種証明書が必要なレストランもありましたが、今ではほとんど見られません。ニューヨーク市内の犯罪率も減少しており、アジアンヘイトの事件も殆どなくなっております（危険な地域はまだありますが）。まだ電車、バスなどの交通機関ではマスク着用が推奨されていますが、ニューヨークには活気が戻ってきており、休日のマンハッタンは観光客で賑わっています。

【朝食編】

ニューヨークのマンハッタンではカフェ、ベーカリーが数多くあり、朝からビジネスマンや旅行客がたくさん集まっています。私もたまに出勤前にカフェに行きブラックコーヒーを注文しますが、注文する際に必ずニックネー



ムを聞かれます。私は「マリオ」というニックネームを毎回使いますが、全く「マリオ」感がないせいか毎回聞き返されます。しかし、効果は抜群で、絶対に受け渡しミスは発生しません（毎回注文スクリーンに「Mario」と表示されるのは少し恥ずかしいですが…）。朝の低血糖から抜け出すためにはクッキーも効果的です。クッキーと言っても日本の倍くらい大きいので、1つだけでもおなか一杯になります。

写真はモーニングで食べたスモールサイズのパンケーキですが、直径18センチのパンが3段になっており、チョコチップとバターミルクシロップでKnock outです。

【ランチ編】

ランチの時間帯には、各人思い思いの場所に出かけたり、同僚と食べに行ったり、人それぞれです。私は上司や同僚と近くの日本食や中華料理を食べに出るのですが、流石はマンハッタン。ランチと言っても20ドルは軽く超え

てしまいます。とんかつを食べに行こうものなら35ドルはかかりますし、ライスお替りで3ドル。流石に毎日通っては破産するので、頻繁に「フードトラック」と呼ばれる屋台のランチを利用しております。

マンハッタンのオフィス街にはフードトラックが多く集まり、時間のないビジネスマンのお腹を満たしてくれます。ステーキ、カレー、サラダ、ハンバーガー、チキンライスなど色々なジャンルのフードトラックがあり、料金は約10ドルととても良心的です。私のおススメは「STEAK FREAK」でステーキとライスが11ドルで食べられます。驚きなのが、このフードトラックはとても人気で、いつ行っても20人前後の人ばかりができていますが、注文する人の顔と注文を全て覚え、ミスもなく受け渡しされるところです。(料金後払いなのも凄い！)。

ちなみにマンハッタンには日本のラーメン屋が複数ありますが、弊社近くの一蘭は連日長蛇の列ができており、観光地と化しております。私も一度足を運びましたが、そのお会計に圧倒され、日本に戻った際の楽しみにしようとして心に決めました。

【ディナー編】

マンハッタンと言えばやはりステーキ。日本に進出したピータールーガー、ベンジャミンステーキハウス、ウルフギャングは全てマンハッタン発祥のステーキハウスです。数あるステーキハウスの中から「Porter House Bar and Grill」を紹介します。

このステーキハウスは何度もミシュランに掲載されているお店で、セントラルパークが見下ろせるコロンバスサークルにあります。店の名の通り、バーカウンターでお洒落に一杯だけという客もいるようで、店内は常に賑わっています。こちらではドライエイジと言って熟成専用冷蔵庫で約30日間ほど熟成したお肉が堪能できます。脂身が好きであればリブアイ、苦手であればフィレとなりますが、おススメはやはり「ポーターハウス」です。骨を境にフィレとリブアイが分かれており、どちらの部位も堪能でき、残った骨は持



「Porter House Bar and Grill」のステーキ（上）とアスパラガスリゾット（下）

ち帰りできるので、私は家でカレーを作る際に使ったりしています。

私がおすすめるラインアップは、オイスター、ミートタルト、ポーターハウス、メにアスパラガスリゾットです。このリゾットはお手頃価格で好きなだけトリュフを添えてくれるのでコスパが非常に良いと思います。ワインの知識は皆無に近いのですが、IPAと一緒に食べるオイスターやお肉も最高に美味しいです。注意すべき点は、ポーターハウスはお肉の量がとても多いことです（写真は2人前）。ご家族やご友人と一緒に堪能されることをおすすめします。

【番外編】

都市型農業 少し話は逸れてしまいますが、ホール・フーズマーケットの2022年トレンド予想1位に選ばれているように、ニューヨークマンハッタン近郊では「超都市型農業」がブームになっており、街中にはビルの屋上や空き家を活用した畑が存在しています。土地が限られているため、大規模には至らないものの、サステナビリティの観点からもニューヨークにオフィスを置く企業やその他州の大企業が率先して進めています。7月下旬に訪問したビルでは、キュウリ、ナス、ニンジン、トマト、トウモロコシ（スウィートコーン）に加え、リンゴも栽培されており、更には養蜂も行われていました。このビルでは雨水を灌漑用水として利用しており、更に植物が光合成に必要な二酸化炭素はビルから排出されたもので、排出された酸素はビル内に循環されるという仕組みです。

チップについて これまでチップ文化のない日本で30年間暮らしていた私は未だどれほどのチップが適正なのか分からないままですが、チップとは「相手への感謝」「義務ではなく、お店の対応や味に対して労いも込めて支払うもの」だそうで、一概に決まった金額というものは存在しないようですが、ニューヨークでは税前料金に対して18～20%が相場となっています。（10年前に来た時は15%くらいだったような…）お店によっては既に料金に乗せているところもありますが、基本的には自らチップを選択できます。マンハッタン



マンハッタンのビル屋上の畑

内のお店はどこも期待を裏切らない味で非常に接客も丁寧なので、チップがかさんでしまいますね。

コロナ禍で海外旅行，海外出張はおろか，まだ自由に生活できない日々が続いております。1日でも早く収束し，また皆さんとニューヨークでお会いできることを心から楽しみにしています。

丸紅株式会社

弊社食料第二本部穀物油糧部社員のご紹介



◆大垣 和平／オオガキ カズヘイ

皆様，初めまして！（&いつもお世話になっております！）丸紅の大垣和平と申します。2013年に入社し，当時の飼料畜産事業部，穀物第一部などを



を経て，2017年からは初代ガビロントレーニー（研修生）として米国内各地のカントリーエレベーターを四半期～半期ごとに点々と移動しながら現場経験を積ませていただきました。2019年に帰国後は食品用大豆のトレードを2年ほど担当しまして，今年より穀物課に所属しております。現在の業務は主に各飼料メーカー様向けに主原料のご成約業務と5時半を過ぎてから備船業務に

従事しております。

父親の仕事の関係でシンガポールで生まれ（ワッラオエー！）、幼少期・思春期をシンガポール、台湾やアメリカで過ごし、大学入学と同時に帰国いたしました。大学時代はバイク通学だったこともあり、休みがあれば仲間とツーリングを楽しんでました。一番の思い出は宗谷岬の極寒ツーリングです。

閑話休題、特にここ数年、我々を取り巻く環境は日々大きく変化しております。シカゴコーンは史上最高値圏にあり、為替市場もアジア通貨危機以来の円安水準に向かっております。僭越ながら、これからも穀物の安定供給のために少しでも多く貢献できるよう精進してまいりますので、どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

◆山田 耕人／ヤマダ コウト

皆様はじめまして、丸紅の山田耕人と申します。入社8年目、麦油糧課にて飼料用麦、食糧用麦のトレードを担当しております。入社から2年間は経理部隊にて会計業務を担当しておりましたが、3年目から穀物部隊でお世話になっております。穀物に移籍してからは2年間、飼料・食品用コーン、マイロを担当。その後麦担当になり、早3年が経ちました。日々起こるドタバタを温かく見守って下さるお客様方と、賑やかな職場の同僚達に支えられながら、どうにかこうにか毎日を生きております。

埼玉県出身、好きな映画は翔んで埼玉。1992年8月4日生まれの満30歳。バラクオバマ元大統領と同じ日に生まれました。とても暑い日に生まれたと母は申しておりました。小学生で柔道を始めましたが、痛いことが嫌いですぐに野球に乗り換え。なんとなく辞めづらく大学まで続け、現在でもベンチ要員として会社の野球部の末席に座らせていただいております。趣味は相撲観戦。好きな力士は照ノ富士関。序二段まで落ちてでも不屈の闘志で横綱まで駆け上がった意志の強さに感銘を受けました。好きな決まり手は“上手投げ”。魁皇関の右上手からの豪快な投げに心動かされました。小さな頃から大きな男性に憧れ、公式プロフィールは185センチ、90キロという設定でございます。



30歳を迎えた今年の抱負は大けがをしないこと。謙虚に一步ずつ前進していきたいと思います。

飼料原料を取り巻く環境は非常に厳しく、我々輸入商社の役割とはなんなのか自問自答を繰り返す毎日です。これまで育てていただいた皆様、これからお世話になる皆様に感謝の心を忘れず、まだまだ若輩者では御

座いますが、今後も日本の食糧安定供給の一助となるべく邁進していく所存です。改めまして、関わっていただくすべての皆様あつての丸紅穀物油糧部です。今後も厳しくも温かいご指導の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

◆川田祐一郎／カワタ ユウイチロウ

はじめまして！丸紅株式会社、穀物油糧部穀物課の川田祐一郎と申します。入社5年目ですが、穀物ビジネスに携わらせていただいたのは今年4月からで、それまでは弊社の財務部にて資金繰りや為替取引の実務を行ってまいりました。入社当初から憧れを持っていた営業部に異動となり、穀物トレードのダイナミズム、刻一刻と変化するマーケットの臨場感、多くのお客様と直接

お話できることなど、様々な魅力を噛み締めながら、学びの多い日々を過ごしております。

先日は、収穫直前のクロップを見学するため米国に出張してまいりました。実際に栽培されているコーンや大豆を観察し、農家の方々の話を聞くことで、より手触り感を持って業務に取り組めるようになったと感じております。現在はブラisingと為替予約



を担当しておりますので、オーダーやマーケットに関するご質問等、いつでもお待ちしております！

学生時代はバスケットボールに打ち込みましたが、最近は山登りなど、身体を動かすことを趣味にしています。先日行ったゴルフのスコアは137と、まだまだ実力不足ですが、練習に励みたいと思います。至らぬ部分も多々あるかと思いますが、精一杯努力してまいりますので、何卒よろしくお願いします。

◆橋本 健作／ハシモト ケンサク

平素よりお世話になっております。2021年10月より穀物油糧部へ異動、蛋白飼料課で大豆粕のデリバリー担当をしております、2020年入社の橋本健作



と申します。入社当初は、バックオフィス配属、穀物油糧部に異動までは穀物／食品チームの与信管理及びポジション管理に従事しておりました。

座右の銘は「ニンニク入れますか?」です。好物はラーメン、特に二郎系ラーメンの類が好物です。出会った当初はコール（麺のトッピングの注文）を専ら楽しみ、極上の組み合わせを研究しておりましたが、最近考えるのも面倒になり一番コールが楽な全マシマシと注文する日々です。食

すときはなるべく形を残したまま胃に届ける必要があるので断麺～飲み込むまでに概ね2－3囓みすることで、マスクの下で常にJIRO臭を独り占めすることができるのでお勧めです！この文章を書いていたらお腹すいてきたので早速行ってきます。

話は変わりますが、幼少期より剣道を続けており、高校大学は部活動で、現在もコロナ禍の制約はあるものの、会社の部活に所属し継続しております。剣道の構え方には四種類、上段／中段／下段／二刀がございます。一般的な構えは中段ですが、目立ちたがり屋な性分が故、弊員は上段構えを取っております。大きく上方に構え、逞しく堂々と戦う姿に憧れ、高校の時に中段から上段に変えました。最近はコロナで剣道が殆んどできていない分、この熱量を関係者皆様に届けていきたいと存じます。

New Balance

< 11 >

岩崎食料・農業研究所 所長

岩崎 正典



「ウクライナ戦争と米国ドル高に翻弄される今年の穀物市場」

——熱波による作柄不安と、利上げに伴う需要減退懸念との綱引き——

1. 振り出しに戻った穀物市場と米国農務省の統計数字

四半期末を意識した持高整理の手仕舞い売り圧力を受け、7月1日のシカゴ先物トウモロコシの値位置は、概ねロシアがウクライナに侵攻した直後の水準に戻った。2月下旬は、国際市場への供給に新しい制約要因が生まれて市場が大慌てになったが、時間が経過して、市場は過剰な心配や期待をする必要のないことに気が付いた。干ばつモニターでは、土壤水分の不足がコーンベルトの南側で拡大したが、トウモロコシは3月初旬の値位置に戻された。7月前半には播種が順調に捗った地域で受粉が始まるが、そのタイミングで降雨が期待できる天気予報が弱材料になった。

a. 米国農務省の実作付面積推定

	実作付面積	市場予想	意向面積	昨年実績	前年との相違
トウモロコシ	89.921	89.861	89.490	93.357	▲3.436
大豆	88.325	90.446	90.955	87.195	+1.130
全小麦	47.092	47.017	47.351	46.703	+0.386
その他春小麦	11.110	10.844	11.200	11.420	▲0.310
デュラム	1.976	1.839	1.915	1.635	+0.341

単位は百万エーカー

トウモロコシは、4月から5月に掛けて高値を更新したことから、少なくとも371千エーカーの作付面積を買い戻したと市場で判断されていたが、米国農務省は431千エーカーの増加の89,921千エーカーと推定した。3月の意向面積からの上昇はミネソタで50万エーカー、ウイスコンシンが30万エーカー、アイオワ、イリノイとミズーリで各10万エーカーの増加になったが、ノース・ダコタは60万エーカー、サウス・ダコタは30万エーカーの減少と示された。主要産地のイリノイ、インディアナ、ネブラスカそしてカンザスは意向面積通りで播種されていた。

なお、米国農務省は6月1日時点で、トウモロコシで4.03百万エーカー、大豆で15.8百万エーカーの作付け未了の面積が残されていたと推定し、ミネソタ及び南北ダコタの3州では追加の面積調査を行い、8月度の需給報告で修正を行う予定になった。

b. 四半期在庫報告（トウモロコシ：単位は、百万ブッシェル）

今回 4,346 市場予想 4,343 前年同期 4,111 3月在庫 7,756

全米在庫は4,346百万ブッシェルで、前年同期を6%上回った。農場在庫は2,121百万ブッシェルと前年同期を22%上回ったが、農場外在庫は2,225百万ブッシェルと前年同期より6%の減少になった。農家が強気で販売を手控えていることの裏付けになったが、3-5月期の消費推定は3,410百万ブッシェルで、前年同期の3,585百万ブッシェルを下回り、エタノールは好調であったが、飼料用途及び輸出の減退と推察された。

2. 驚きの見当たらない7月度の需給報告が弱材料になった

天気予報は高温乾燥型を示唆したが、雷雨の形でコーンベルトに水分補給が観測されるようになり、週間作況作柄進捗報告はトウモロコシや大豆の作況と作柄進捗が概ね良好であることを確認して安堵感を与えた。一方、原油や銅先物など実物商品の多くがロシアのウクライナ侵攻前の水準に戻り、値頃感による押し目買いが広まったが、穀物市場は米国農務省の需給報告で、ファンダメンタルズの統計を基に、需給予測が見直された。

a. 新穀年度の供給量

旧穀年度トウモロコシの需給は、輸出需要の伸び悩みが反映されるとの予想が外れ、家畜の飼養規模の減退を反映した飼料用途の小幅な減少25百万ブッシェルにとどまり、期末在庫は6月予測より25百万ブッシェル多い、1,510百万ブッシェルに改定された。新穀の生産高は、収穫予想面積が前月より0.2百万エーカー多い、81.9百万エーカーに改定されたが、単収見通しは177.0ブッシェルで据え置きとなり、生産高は前月より45百万ブッシェル多い、14,505百万ブッシェルになった。繰越在庫の増加と新穀の作柄見通しの好転との合計70百万ブッシェルが新穀の供給増加になったが、新穀年度の需要見通しが全く手つかずに据え置きになったので、期末在庫は1,470百万ブッシェルに増え、農家価格見通しは前月より10セント低い665セントに改定された。

新穀トウモロコシの供給体制は次の通り。

	2020／21年度	2021／22年度	2022／23年度	
			6月予測	7月予測
繰越在庫	1,919	1,235	1,485	1,510
生産高	14,111	15,115	14,460	14,505
輸入	24	25	25	25
供給量	16,055	16,375	15,970	16,040
国内消費	12,068	12,415	12,170	12,170
輸出需要	2,753	2,450	2,400	2,400
期末在庫	1,235	1,510	1,400	1,470

単位は百万ブッシェル

b. 国際需給バランス

米国では新穀年度の需給の骨格が固まりつつあり、輸出余力も前年並みに確保される見通しになった。トウモロコシや大豆は、今年度の中国向けの輸出が、中国が米中通商合意の実現に注力した2020／21年度には、到底及ばない数字に終る見通しで、その分が需給の逼迫化を免れる要因の一つになるが、米国ドル高と南米諸国の作柄がウクライナからの供給減退を相殺した感触を強めた。

トウモロコシ	2020／21年度	2021／22年度	2022／23年度	
			6 月予測	7 月予測
全世界	112,900	121,787	118,581	118,590

単位は万トン

世界のトウモロコシ生産見通しは、前年度より3,197万トンまたは2.6%の減産見通しになった。今のところ、米国の減産が1,550万トン（4%）と予想され、投入経費高から播種面積が手控えられたことが影響した。一方、米国を除く諸外国合計は1,647万トンの減産（2%）が想定されるが、ウクライナの減産が1,713万トンと予想されるので、10月から生育する南米諸国の作柄が良好との前提であることに注意が必要である。

米国に次ぐ大産地の中国は、前年度から155万トンの減産見込みで様子見が続いている。高温乾燥気候が報じられる欧州は25万トンの作柄低下となり、前年比では250万トンの減産見通しになった。戦乱下のウクライナは収穫予想面積が2割弱の減少、単収も大幅な低下で2,500万トンの作柄見通しで生育を見守っている。国際市場への供給に大きな影響を与えるウクライナの作柄及び輸出再開の見通しが不透明であると同時に、南米諸国の作柄は2020／21年産がラニーニャ現象で大きな影響を受けたということもあり、今年も両国への依存度を高めている。米国農務省は、需要の伸びが感じられないので、期末在庫は期首在庫並みの31,294万トン进行予測している。よくよく考えると、ウクライナからの輸出が大幅に減退することによる国際貿易量の減少と、期末在庫の取り崩し回避という構図なので、需給の引き締め懸念による高値がトウモロコシ需給を均衡させたと言えなくもない。

3. 8月に向けては天候不安とウクライナ産穀物の輸出再開とが綱引状態

欧州の南西部に熱波が拡大して、収穫が後半に移った冬小麦はともかく、トウモロコシなどの春作物の作柄が懸念され始めた。市場は、国連とトルコが仲介に入り、ウクライナとロシアが同席して、黒海から穀物の輸出再開の手順打ち合わせと、その進展に期待感を強めたが、7月下旬に、ウクライナが

らの穀物輸出再開で4者間合意ができた矢先に、ロシアがウクライナの港湾地域にミサイル攻撃を加えたことで、合意の履行への不透明感が強まり、市場は反発気配を強めた。

米国中西部での7月後半からの天気はトウモロコシにとって好都合に推移したに加えて、外部市場でガソリン価格の急速な下落が始まり、FRBの積極的な利上げの効果でインフレの抑制ができそうな気配を見せたことで、商品ファンドの手仕舞いが進んだ。週が替わり8月になると、コーンベルトに高気圧団が移動して、高温乾燥気候が定着するとの予報になったことから、8月の天気で作られる大豆が窓を開けての急伸で始まり、トウモロコシがそれに追隨する展開になった。

4. 8月度の需給報告を控えて、マチマチな展開

8月の天気は実際にはそれほど厳しいものではなかったのに、8月の天気に作柄が大きく左右される大豆が窓を開けての急落となり、トウモロコシや小麦がそれに追隨する展開になった。市場心理を支配したのは、世界規模の景気の減速による実物商品の需要不安であり、欧州の熱波の懸念や、米国中西部の高温乾燥による単収見通しへの心配は限定的な影響に終わった。トウモロコシは週間作況作柄報告が、ドウ段階に26%の進捗で、評価の優と良好の割合は前週と変わらない61%で、前年同期より1%の悪化と、作況評価の悪化が進まなかったことが弱材料になった。

5. 作況評価の悪化で減産懸念を強める中での8月度の需給報告

米国中西部のトウモロコシは、8月に入ると受粉期から穀粒形成期に移行するので、次第に水分の必要量が低下する。米国農務省の8月度需給報告は8月12日に予定され、トウモロコシや大豆の単収及び作柄予測が、これまでの机上計算予測から実施調査に基づく、データ重視の推定にと切り替えられる。従い、米国農務省の係官が実際の産地に設定された、計測用の圃場を訪問する8月初旬の畑の実態と、その後の天候推移を加味した天候リスクの織

り込みが、市場を動かす要因になった。まとまった降雨量がミネソタ南部、アイオワ北部、ウイスコンシンからイリノイ北部の北部産地で観測されたので、米国農務省の週間作況評価は小康状態と思われたが、トウモロコシの作況評価（優と良好の割合）は3%の悪化で、前年同期を6%下回る58%で発表になった。こうした、市場参加者の直感と、米国農務省の報告とのズレが災いして、トウモロコシは大きな窓（607-612セント）を開けての高値寄り付きで始まり、大豆も窓（1,400-1,408）ができての高値寄り付きとなった。

8月に入ると欧州の熱波の影響がより深刻な問題視されて、欧州のトウモロコシ生産見通しが前年実績より1,000万トンも下方修正されたことで、米国中西部の高温乾燥による作柄見通しの下方修正への警戒感が強まる中で、8月度の需給報告が発表になった。

6. 懸念されたほど需給が引き締まらずに済んだ8月度の需給報告

a. 米国の穀物生産高推定

	8月推定	市場予想	7月予測	前年実績	前年比
トウモロコシ	14,359	14,392	14,505	15,115	▲756
単 収	175.4	175.9	177.0	177.0	▲ 1.6
大 豆	4,531	4,481	4,505	4,435	+96
単 収	51.9	51.1	51.5	51.4	+0.5

生産高の単位は百万ブッシェル、単収の単位はブッシェル/エーカー

トウモロコシの生産高は、7月予測より146百万ブッシェルの減産見込みになった。収穫予想面積は100千エーカー少ない81,840千エーカーに下方修正された上に、単収見通しが前月予測・前年実績より1.6ブッシェル少ない175.4ブッシェルに下方修正され、傾向値単収より5.6ブッシェル低いことが起因した作柄の悪化で、前年実績より756百万ブッシェルも下回る見込みになった。

大豆の生産高は、7月予測より26百万ブッシェルの増産見込みになった。収穫予想面積は300千エーカー少ない87,211千エーカーに下方修正されたが、単収見通しが前月予測より0.4ブッシェル、前年実績より0.5ブッシェル多い51.9

ブッシェル／エーカーに引き上げられ、これまでの最高であった2016年産と肩を並べる見通しとなり、面積の下方修正を相殺して余りがあった。

全体的な印象は、隣り合わせの畑に植わっているトウモロコシと大豆の作況評価の相違が大きく、収穫作業が終わってからでないと、単収が確定しないような印象を与えた。また、ソルガムの生産高は前年比36%の減産で286百万ブッシェルと推定された。そして、欧州のトウモロコシも大減産が確実視されるなど、粗粒穀物全体としての供給減少が目立つ内容になった。

b. 米国の需給バランス（期末在庫予測）

	新穀年度末（7月予測）	旧穀年度末（7月予測）
トウモロコシ	1,388 (1,470)	1,530 (1,510)
大豆	245 (230)	225 (215)

単位は百万ブッシェル

米国農務省は、旧穀年度のトウモロコシ期末在庫を20百万ブッシェル引き上げた。産業用途の項目で、エタノール用途の消費を25百万ブッシェル下方修正し、その他産業用途の消費を5百万ブッシェル増加と見込んだことによる調整であり、その結果、新穀年度への繰越在庫が20百万ブッシェル増えた。旧穀年度の農家価格見通しは595セントで変わりなかった。

新穀年度は、期末在庫見通しが前月より82百万ブッシェル少ない1,388百万ブッシェルに改定され、市場の事前予想を14百万ブッシェル下回った。新穀年度の供給量は作柄見通しの引き下げから、前月見通しより127百万ブッシェル少ない15,913百万ブッシェルに下方修正された。繰越在庫の増加では、146百万ブッシェルの作柄見通しの悪化を埋め合わせできなかった。こうした供給の制約から、米国農務省は飼料用途の消費を25百万ブッシェル引き下げて5,325百万ブッシェルとし、輸出需要も25百万ブッシェルの削減で2,375百万ブッシェルに手控えた。一方、産業用途は5百万ブッシェルの増加で6,825百万ブッシェルに改定されたが、エタノール用途の消費は5,375百万ブッシェルで据え置かれた。差し引きの総需要量は、前月より45百万ブッシェルの減少となり、期末在庫は期首在庫から142百万ブッシェルを取り崩すことになり

1,388百万ブッシェルに引き下げられた。対消費在庫率では9.6%と前年末から0.5%の引き締め見込みになったが、農家価格は前年度から70セント高の665セントで据え置かれた。新穀年度は、供給が減少するので、需要の減退が必要になったとの予測で、飼料用途は前年度から275百万ブッシェルの減退で5,325百万ブッシェル、輸出需要も75百万ブッシェル少ない2,375百万ブッシェルとの予測になった。

c. 世界の穀物需給バランス

		22／23年度（前月）	21／22年度（前月）	相 違
トウモロコシ	生産高	117,961 (118,590)	121,876 (121,787)	▲3,915
	期末在庫	30,668 (31,294)	31,184 (31,228)	▲516
小 麦	生産高	77,960 (77,164)	77,924 (77,903)	+ 36
	期末在庫	26,734 (26,752)	27,635 (28,010)	▲901
大 豆	生産高	39,279 (39,140)	35,274 (35,274)	+ 4,005
	期末在庫	10,141 (9,961)	8,973 (8,873)	+ 1,168

単位は万トン

世界のトウモロコシ生産見通しは前年比で3,915万トン（3.2%）の減産見通しになったが、今月はEUの作柄見通しが800万トン悪化して6,000万トン、前年実績より1,098万トンの減産見通しに下方修正されたことが目立った。米国も372万トンの作柄悪化が起こったが、ウクライナの作柄見通しは500万トン好転して3,000万トンに上方修正されたが、前年比では1,210万トンの減産見通しになった。こうした主産地の作柄見通しの悪化により、期末在庫は30,668万トンに取り崩しが見込まれて、需要も縮小が想定されている。そして、中国の輸入も前年度より500万トン少ない1,800万トンの予測に変わりはなく、大減産の欧州は輸入が300万トン多い1,900万トンに引き上げられ、一方で470万トンと想定されていた輸出は270万トンに引き下げられた。（前年度は580万トンの輸出実績なので、上下で大きな相違になる。）また、ウクライナからの輸出見通しは作柄見通しの回復に合わせて前月予測の900万トンから1,250万トンに上向き改定が行われたが、前年度の約半分にとどまる見込みになった。

7. メディアが世界各地の猛暑を取り採り上げ、食料の供給不安を煽る

8月を通じて、世界各所の猛暑がメディアの話題になり、米国農務省の週間報告には、偏西風の蛇行とラニーニャ現象との相乗効果が北半球を一回りする形で、北半球の中緯度帯で、プラス（熱波）とマイナス（降雨）の地域が交互に登場する連鎖の様子が示された。中国では長江の水位が記録的な低下になり、長江流域の干ばつにより農村部の人々と家畜の飲み水が不足し、農作物の生育に悪影響が出ていることが報告された。欧州では、熱波がもたらしたのは穀類の減産、電力の供給不安だけでなく、天然ガス価格の高騰により肥料の製造者が操業の短縮を強いられて、窒素肥料の供給が少なくとも25%削減されたとブルームバーグ誌が報じた。

8. 市場が天候リスクの評価に途惑う中、外部の経済環境が弱材料になった

珍しく、米国モデルと欧州モデルが一致して、8月下旬に適度の降雨を予想した上に、気温も平年並みの適温との予報に変わった。土壌水分の枯渇が進んだデルタやコーンベルトの南側でも降雨が期待できるとの予報が、作柄懸念を和らげた。外部市場では、米国ドル高の進行と中国の経済指標の悪化等の弱材料が重なり、中国向け需要の高い大豆に売圧力が強まった。欧州に続いて中国経済も減速に向かうことで、世界景気への不透明感を増し、それと伴に米国ドルが安全資産としての需要を高めて、米国ドル高が商品及び穀物市場への圧迫材料になった。

9. 業界有志の産地視察報告が作柄不安を強めた

週末に西はアイオワの北西部から東はオハイオに至るまで、コーンベルトの北側を中心に1／4インチから2インチの降雨が観測された。8月21日時点で、トウモロコシはドウ段階に75%、デント段階は31%に進み、南部産地は成熟段階に到達したので、今後は水分の必要性が低下すると判断された。北部の主産地は専ら晴天の下で雷雨の形で水分補給が見込めたが、カンザス

を始め基幹国道70号線の南側では、降雨不足が定着した。

こうした天気と天気予報であれば、もはや天候による減産リスクの織り込みは必要なくなり売圧力が強まると思われたが、プロ・ファーマ誌主催の産地視察からの速報が、コーンベルトの両端での作況が予想以上に悪いことを伝えると、市場の雰囲気を一変させた。南部産地の作柄見通しの悪さは、米国農務省の作況評価を通じて衆知の事実であったが、業界有志による産地視察で、トウモロコシはハスク（外皮）を剥いで、穂実（イヤーコーンの内容）を確認することで、外見と異なる畑の実態が判明した。また、着鞘数が単収の決め手になる大豆も、単位面積当たりの着鞘数の低さが報告された。

大豆は、中国向けの大口輸出成約が続き、週次には517千トンの纏まった成約報告が浮上した。こうした米国大豆の高値は、9月後半から播種作業が始まるブラジル農家に増産を促し、CONAB（ブラジル食料供給公社）は次年度の大豆生産高を1億5,036万トン（輸出余力は9,200万トン）と予測した。トウモロコシも1億2,550万トンの作柄（輸出余力は4,450万トン）が見込まれて、北半球での熱波による作柄の悪化は、需給の引き締め懸念を伝える高価格になって、南米の農家の耳に届いた。一方、懸念されていたウクライナからの穀物輸出状況は8月25日までに、36隻が出航してウクライナ産穀類が合わせて、746千トンが船積みされた。トウモロコシが大半の511.7千トン进行占め、小麦が79.1千トン等になった。新穀の収獲物の収容に必要なスペースを確保するためにも、旧穀の在庫を急いで積み出す必要があると報じられた。

成熟期に移行した米国産トウモロコシや大豆に減産リスクが残る中、欧州産トウモロコシの大減産が必至となり、中国の穀倉地帯でも天候不順の影響が心配されるようになったことで、シカゴ定期では売持が回避されるようになった。トウモロコシは、受粉期を無事に通り抜けたことによる安堵感を否定するようにして、50日移動平均線の位置を突破すると投機筋の買いが復活した。中国で干ばつに見舞われたのは華南のコメ産地であり、トウモロコシの産地ではないが、食糧需給が引き締められればトウモロコシも必要になるに違いないとの、投機筋の判断と思われる。また、EU委員会からトウモロコシ

の作柄見通しが5,920万トンへと下方修正が発表され、過去7年間の最少とのコメントと共に、フランス産トウモロコシの作況評価が悪化して、作柄の下方修正の可能性が伝えられた。外部市場の米国ドル高・株安、景気の減速懸念等は無視されて、作柄見通しが縮小に向かう時期は売持を避けるという、経験側がシカゴ穀物市場を支配するようになった。そうした市場心理を裏付ける形で、プロ・ファーマ誌は、今年のトウモロコシの単収予測は168.1ブッシェルと米国農務省の8月予測175.4ブッシェルを大幅に下回る一方、大豆の単収予測は51.7ブッシェルと米国農務所の8月予測51.9ブッシェルからの微減で発表した。

10. 新穀年度の始まり

今年の米国産トウモロコシは豊作とは言えない可能性が高く、そうなればそうなるほど農家の売り腰は強くなり、春先のウクライナ侵攻がもたらした高値でヘッジ売りを行った農家が多いことを考えると、その当時の7ドル台後半の値位置から1ドル以上の安値で、追加の販売をする農家は考え難い。マクロの経済環境は、金融当局が今回は間違いを絶対にしたくないという決意で、インフレ抑制を最優先しているので、金利高がもたらす需要の削減効果は、食料品への影響は軽微かもしれないが、不景気になれば財布のひもは固くなるので、需要の増加は期待できなくなる。そうした需要の減退は随分と先の話になり、目先は買い場を失ったことに慌てる実需者のヘッジ買または現物手当が、豊作に売りなし商状と相まって、思い掛けない高値が出るかも知れないとする予感が広まった。

11. 予期せぬ強材料になった9月の需給報告

足元のインフレの高進とその対策としての大幅利上げが、外部市場の関心事になって、シカゴの穀物市場はそれ自体のファンダメンタルズに、専念できない環境になった。8月から北半球の各地での異常気象（熱波と洪水）が世界の関心事になったが、米国ではそうした高温乾燥が南西部や大平原中央

部から南部の冬小麦産地に集中して、今年の春作物は干ばつの影響をうまく逃れることができた感触が広まった。ところが、8月下旬になって、業界有志の産地視察結果が、新穀トウモロコシの作柄に大幅な下方修正が必要になったことを示唆することで、トウモロコシが先頭になってシカゴ定期の上昇トレンドを鮮明にさせた。

＝ 9 月度の需給報告 ＝

a. 米国の穀物生産高推定

今月の報告は市場の事前予想から、大きく乖離した数字と内容で発表された。先ず初めに、大豆の生産高は4,378百万ブッシェルと推定され、単収見通しが50.5ブッシェル・エーカーと前月予測より1.4ブッシェル、前年実績からは0.9ブッシェルの低下になった上に、収穫面積がこれまでの予測より約1%少ない86.6百万エーカーに引き下げられたことで、前月比では3.4%の減産、前年実績比では1.3%の減産見通しになった。面積の見直しが播種作業の遅れた北部産地で実施されたが、播種面積がこれまでの推定よりも0.6%少なく、前年実績より0.3%多くなった。トウモロコシの生産高は、13,944百万ブッシェルと推定され、前月予測より3%、前年実績からは8%の減産見通しに改定された。単収見通しが前月予測から2.9ブッシェル少ない172.5ブッシェル、前年実績からは4.5ブッシェルの低下見通しになった上に、収穫予想面積も前月より約1%少なくなり、前年度より4.6%の減少見込みの80.8百万エーカーに改定された。なお、小麦は、9月末に麦類の最終生産高推定が予定されているため、8月度の推定で据え置かれた。

	9月推定	市場予測	8月推定	前年予測
トウモロコシ	13,944	14,088	14,359	15,115
大豆	4,378	4,496	4,531	4,435

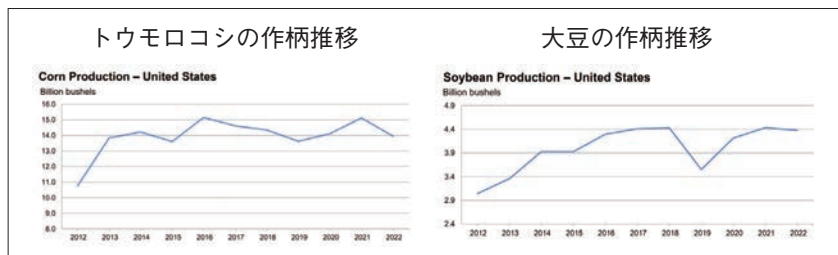
単位は百万ブッシェル

トウモロコシの生産高をもう少し詳しく見ると、前月より415百万ブッシェル、市場予測よりも271百万ブッシェル控え目な数字になったが、全米平均単

収が2.9ブッシェル少ない172.5ブッシェルに引き下げられた上に、収穫予想面積が6月の実作付面積推定時点の予測より996千エーカー減少したことが災いした。主要生産州の単収を見ると、前月比較でアイオワが5ブッシェル減の200ブッシェル、ミネソタが3ブッシェル減の190ブッシェル、インディアナが3ブッシェル減の186ブッシェル、オハイオが4ブッシェル減の186ブッシェル、ウイスコンシンが2ブッシェル減の183ブッシェル、ネブラスカが5ブッシェル減の176ブッシェルと主産地での下方修正が目立つ中、唯一イリノイが1ブッシェルの向上で204ブッシェルと、全米で最高の単収見込みになった。コーンベルト西側で大平原に近い産地が、受粉から子実形成の期間に高温乾燥型の天気になった影響から、単位面積当たりの穂実（イヤーコーン）の数が第5位に低下したことが判明した。

8月を通じての天気は、ミシシッピ川の西側でロッキー山脈寄りの大平原諸州で高温乾燥型が支配的であった。幸いにして、3-I州（アイオワ、イリノイ、インディアナ）が適温適雨の天気で、まずまずの豊作が確保されたことで、トウモロコシの被害拡大を防ぐことができた。

過去10年の生産高推移は下図の通り。



忘れてはならない飼料作物であるソルガムは、乾燥気候に強い作物として大平原南部のテキサスとカンザスでの栽培が中心になるが、今年は干ばつ傾向が強かったことで、農家が作付面積を前年比15%減少の5,480千エーカーに手控えていた。しかし、春先からの土壌水分不足は解消されることはなく、単収は昨年の69ブッシェルが46ブッシェルと約33%の低下見通しになり、生産高推定は252百万ブッシェルと前年比44%減退見通しになった。このため、大

平原南部の畜産市場にはトウモロコシや格落ち品小麦を代替する飼料穀物が失われたのみならず、中国向けの輸出需要も従来のようには賄えなくなっている。

b. 米国トウモロコシの需給バランス

旧穀年度（2021／22年度）の期末在庫は、前回推定より5百万ブッシェル少ない1,525百万ブッシェルとなった。エタノール用途が20百万ブッシェル減の5,330百万ブッシェルに下方修正される一方、輸出需要が25百万ブッシェル増の2,475百万ブッシェルに引き上げられたことから、新穀年度への繰越が小幅な減少となった。

新穀年度の需給は、作柄見通しの下方修正415百万ブッシェルが追加され

USDA需給報告（US産トウモロコシ）

	21／22年度				22／23年度			
報告月次	6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月
作付面積	93.4	93.4	93.4	93.4	89.5	89.9	89.8	88.6
収穫面積	85.4	85.4	85.4	85.4	81.7	81.9	81.8	80.8
単収	177.0	177.0	177.0	177.0	177.0	177.0	175.4	172.5
生産高	15,115	15,115	15,115	15,115	14,460	14,505	14,359	13,944
期首在庫	1,235	1,235	1,235	1,235	1,485	1,510	1,530	1,525
輸入	25	25	25	25	25	25	25	25
総供給量	16,375	16,375	16,375	16,375	15,970	16,040	15,913	15,494
飼料用途	5,625	5,600	5,600	5,600	5,350	5,350	5,325	5,225
産業用途	6,815	6,815	6,795	6,775	6,820	6,820	6,825	6,775
エタノール	5,375	5,375	5,350	5,330	5,375	5,375	5,375	5,325
国内消費	12,440	12,415	12,395	12,375	12,170	12,170	12,150	12,000
輸出需要	2,450	2,450	2,450	2,475	2,400	2,400	2,375	2,275
総需要量	14,890	14,865	14,845	14,850	14,570	14,570	14,525	14,275
期末在庫	1,485	1,510	1,530	1,525	1,400	1,470	1,388	1,219
在庫率(%)	10.0	10.2	10.3	10.3	9.6	10.1	9.6	8.5
農家価格	5.95	5.95	5.95	5.95	6.75	6.65	6.65	6.75

単位：面積は百万エーカー、単収はブッシェル／エーカー、生産・消費は百万ブッシェル

たので、前年対比の減産幅は1,171百万ブッシェルになったが、期首在庫（繰越在庫）が前年度より290百万ブッシェル多くなるので、総供給量は前年比881百万ブッシェル少ない、15,494百万ブッシェルになった。供給の減退から、国内の飼料用途の項目は100百万ブッシェル減少して、前年比では375百万ブッシェル少ない5,225百万ブッシェルに改定された。産業用途等でも、エタノール用途の消費が50百万ブッシェル削減されて5,325百万ブッシェルと前年比微減に改定された。国内消費のみならず、輸出需要も100百万ブッシェルの減退で2,275百万ブッシェルとなり、前年比では200百万ブッシェルの減退見通しに改定された。合計して、今月は250百万ブッシェルの需要減退が見込まれ、前年度との比較では575百万ブッシェルの消費手控えを促す需給環境になった。

期末在庫は、期首在庫を309百万ブッシェル取り崩して1,219百万ブッシェルと予測され、2012/13年度以降での最少になった。対消費在庫率では8.5%に前年度から1.8%の減少が見込まれることから、農家価格見通しは旧穀年度の595セントから、新穀年度は80セント高の675セントにと10セント引き上げられた。

c. 国際需給バランス

トウモロコシ

旧穀年度	生産高	今月予測	121,976	8月予測	121,876
	期末在庫	今月予測	31,214	8月予測	31,184
新穀年度	生産高	今月予測	117,258	8月予測	117,961
	期末在庫	今月予測	30,453	8月予測	30,668

単位は万トン

世界のトウモロコシ生産は、前年比で4,718万トン（3.9%）の減産見通しになり、この内、米国の減産が2,975万トン（7.7%）あり、世界の需給を引き締める働きをしている。北半球の天候不順は、米国と欧州の大減産をもたらしたが、中国東北部は豊作見通しになった。ウクライナも戦禍の中でまずまずの作柄が見込まれるが、今後の輸出船積みには不安が残る。

22／23年度

国名	期首在庫	生産高	輸入	飼料	内需	輸出	期末在庫
世界 8月予測	31,184	117,961	17,978	74,601	118,477	18,562	30,668
世界 9月予測	31,214	117,258	17,825	74,305	118,018	18,358	30,453
中国	21,024	27,400	1,800	21,400	29,500	2	20,722
除 中国	10,190	89,858	16,025	52,905	88,518	18,356	9,732
米国 8月予測	3,886	36,473	64	13,526	30,862	6,033	3,527
米国 9月予測	3,873	35,419	64	13,272	30,481	5,779	3,095
除 米国	27,341	81,839	17,762	61,033	87,537	12,579	27,358
メキシコ	308	2,760	1,770	2,630	4,450	60	328
アルゼンチン	149	5,500	1	1,000	1,400	4,100	149
ブラジル	465	12,600	130	6,550	7,700	4,700	795
欧州 8月	866	6,000	1,900	5,700	7,740	270	756
欧州 9月	966	5,880	1,900	5,700	7,740	270	736
ウクライナ 8月	627	3,000	0	1,050	1,170	1,250	1,207
ウクライナ 9月	557	3,150	0	1,150	1,270	1,300	1,137
ロシア	93	1,500	5	1,000	1,120	400	78
南アフリカ	192	1,730	0	730	1,330	370	222
東南アジア	352	3,126	1,830	4,080	4,910	58	340
韓国	205	8	1,150	920	1,155	0	208
日本	138	1	1,520	1,170	1,520	0	139

単位は万トン

中国：新穀生産高推定 27,400万トン，前月予測 27,100万トン 前年実績 27,255万トン

輸入は前年度の2,300万トンから500万トン少ない，1,800万トンの予想。

欧州：新穀生産高推定 5,880万トン，前月予測は6,000万トン 前年実績 7,098万トン

熱波の影響から作柄見通しが急激に悪化，昨年は1,850万トンの輸入と580万トンの輸出を行ったが，今年は1,900万トンの輸入と270万トンの輸出が見込まれる。

大 豆

旧穀年度	生産高	今月予測	35,324	8月予測	35,274
	期末在庫	今月予測	8,970	8月予測	8,973
新穀年度	生産高	今月予測	38,977	8月予測	39,279
	期末在庫	今月予測	9,892	8月予測	10,141

単位は万トン

米国の作柄見通しが415万トン悪化したことで、市場に驚きを与えたが、これから播種作業が始まる南米諸国が、昨年の悪天候から平年作に戻れば約3,580万トンの増産が可能という予測になっている。米国の作柄が下方修正されたが、中国の需要が伸び悩み、全世界の半分強を生産する南米の天候次第とは言え、需給バランスには余裕が感じ取れる。

22／23年度

国名	期首在庫	生産高	輸入	搾油	内需	輸出	期末在庫
世界 8月予測	8,973	39,279	16,622	32,777	37,825	16,908	10,141
世界 9月予測	8,970	38,977	16,502	32,707	37,768	16,788	9,892
中国	3,074	1,840	9,700	9,500	11,559	10	3,046
除 中国	5,896	37,137	6,802	23,207	26,209	16,788	6,847
米国 8月予測	613	12,330	41	6,110	6,453	5,865	666
米国 9月予測	653	11,916	41	6,056	6,391	5,674	544
除 米国	8,317	27,061	16,461	26,652	31,377	11,114	9,348
メキシコ	30	29	635	655	660	0	34
アルゼンチン	2,255	5,100	480	4,100	4,825	470	2,540
ブラジル	2,246	14,900	75	5,050	5,385	8,900	2,936
パラグアイ	13	1,000	1	325	341	650	23
欧州	93	260	1,480	1,520	1,678	22	133

単位は万トン

小 麦

旧穀年度	生産高	今月予測	77,990	8月予測	77,924
	期末在庫	今月予測	27,567	8月予測	27,635
新穀年度	生産高	今月予測	78,392	8月予測	77,960
	期末在庫	今月予測	26,857	8月予測	26,734

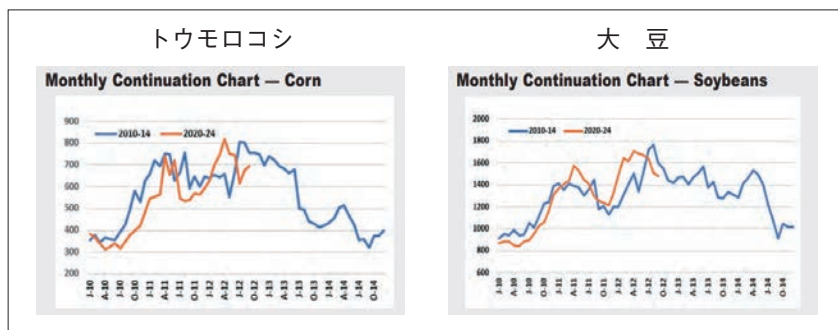
単位は万トン

今年は、ロシアがウクライナに侵攻した結果、西側諸国がロシアに対する経済制裁を発動した結果、それが資源商品の供給減少というブーメラン効果となって欧州経済（市民）を苦しめたが、戦場に遠い資源大国の米国でも、初夏に向けてガソリン価格の高騰になって波及したが、それも6月半ばに峠を越えた。高値が消費を手控えさせるまでには、時間が必要であったことに他ならない。金融当局は、政府からコロナ支援として、民間に移転された巨額のマネーが、インフレの原動力になっているため、需要の抑制を図る高金利政策を、その効果が顕著になるまで止めようとはしない。もし、多くのエコノミストが予測するこのシナリオが正しければ、高価格は時間の問題で消費を手控えさせる働きを強めることになる。

12. 歴史が繰り返されそうな今後の穀物市場

シカゴの穀物市場では、歴史は繰り返すとして、トウモロコシと大豆の定期市場での2020年から値動きは、2010-14年間の値動きと、非常によく似た動きになっているので、これからの値動きは過去の再現になるかもしれないとの予想が語られている。

業界誌によると、月足チャートの比較で次のような推移が示されている。



類似点は、

- ① トウモロコシは2010年と2020年の出発点が、共に350セント近辺であり、大豆の出発点はともに、10ドル付近であった。

- ② 両品ともに、開始年の後半から上昇を始め、一年後に頂点を付けた。
- ③ その年の後半から調整局面に移行したが、新しい年になると反転上昇した。
- ④ 3年目にトウモロコシは8ドル、大豆は17ドルの頂点を付けた。
- ⑤ ラニーニャ現象が太陽黒点の極小期と重なったことで、価格の上昇に発展した。
- ⑥ 出発点の、マクロ経済は景気の低迷期であった。

今後、2024年に向かってのシナリオとリスクは次のように言われている。

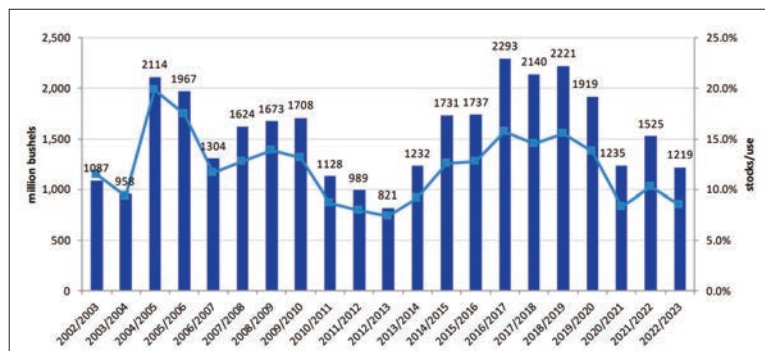
- ① クライナ戦争が終息に向かい、資源の供給不安が和らぐ。
- ② ラニーニャ現象が終わり、世界の天候不順が解消し南米が豊作になる。
- ③ 世界各国の利上げによりスタグフレーションが始まり、商品の需要は減退する。
- ④ 台湾を巡る米中の対立が激化し、貿易取引が悪化する公算がある。

過去の事例が参考になるかどうかは定かではないが、2012-13年の値動きから、トウモロコシが650-750セント、大豆は13.50-15.50ドルの範囲で、2023年半ばに向かうことが予見されている。目先はトウモロコシも大豆も強地合にあるが、こうした高値が長期間に及んで維持されることはなかった。高値が高値を癒す展開になる可能性が高く、農家向けには飛び跳ねた高値は積極的に売り向かうべしとの御託宣になっている。

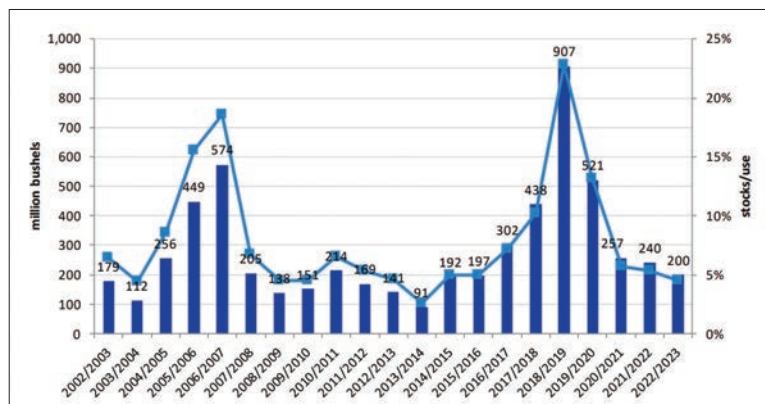
こうした、過去の動きとの類似性も参考になるが、穀物相場は「需給に始まり需給で終わる」とされ、期末在庫水準即ち、需給の引き締め度合いが鍵になるので、米国の期末在庫の推移を参照願いたい。(チャートは、CHS社の需給統計資料より転載)

(2022年9月28日記)

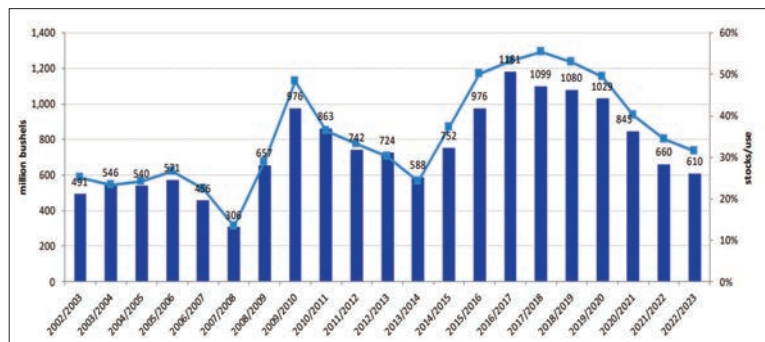
＝トウモロコシ＝



＝大豆＝



＝小麦＝



新年賀詞交礼会についてのお知らせ

飼料輸出入協議会

平素は弊協議会の運営につき種々ご協力を賜り深謝申し上げます。

2023年1月5日の新年賀詞交礼会につきまして、開催の有無を含めたご案内を11月下旬を目途に、弊会のwebサイトに掲載いたします。

下記URLもしくはQRコード（『Feed Trade』掲載サイトと同じ）よりアクセスの上、ご確認いただきますようお願いいたします。

URLは<https://jfta.crefar.com/>です。



編 集 後 記



落語家として3人目に人間国宝になった十代目の柳家小三治師は、落語だけでなくまくらでも有名である。「まくら」とは、落語の本題に入る前のいわゆる「前振り」のような話である。まくらだけで本になり、その本が文庫化され重版まで出るという具合である。

その中で「卵かけご飯」の話がある。暑さが厳しい夏に食欲が減退し、何も食べたくなくなる中でも美味しく食べられるものを発見した。それが「卵かけご飯」である。そして卵かけご飯の食べ方、修行時代に師匠の家の冷蔵庫に並ぶ卵を見ていたら、女将さんから「そういうの（卵）は出世をしてからだよ！」と言われた修業時代（1960年代前半）、そして今では卵をどれだけ食べようと家計に影響を与えないところまで来ましたという流れになる。

今年の夏は東京で猛暑日の日数の新記録が出た。年齢のせいかな、夏になっても食欲が減退しなかった私が、今年は食欲が減退した。そこで卵かけご飯を試したが、これが美味しい。食べられただけでなく、元気になった。

30年近く前に、海外駐在から帰国した先輩に一番食べたいものを聞いたら、生卵と言われた。海外では危ないから食べられないというのである。卵かけご飯は、ご飯の上に直接卵を割り入れる。子供の頃、卵は必ず1個ずつ器に割り入れた。万が一、傷んだ物があつたら大変だからである。それでも、50年以上前の日本では普通に生卵を食べていた。

生卵を心配なく食べられる国は、世界にいくつあるだろうか？ 欧米各国はほぼ全滅のはずである。生卵だけで断ずるのは言い過ぎかもしれないが、日本の素晴らしさ、日本の畜産業の素晴らしさを実感している。

今号は「釜石港コンテナ物語」という地方港にコンテナ船を誘致する話を掲載している。東日本大震災で大きな被害を受けてからの復興の話も含めて読み応えのある内容となっている。また魚粉の話の続編も掲載している。

引き続き、読者に「読んでよかった」と思ってもらえる誌面作りを目指したい。

